

## パブリックコメントで出された意見について

No	意見概要
1	区政経営の基本姿勢の中で「デジタル化の恩恵を受けられる人と受けられない人の間に生じる格差を解消し、すべての区民が同様のサービスを受けることを可能にしていく」とあるが、具体的にどういった方策を考えているのか詳らかにしてほしい。アナログな仕組みを行政手続きにしっかりと残すことが大切だと考える。一定数のアナログ世代が存在している間は急速なデジタル化は進めず、デジタル手続きと対等の位置付けでアナログ手続きも存続してほしい。
2	人生100年時代という表現はおかしい。100歳まで生きるひとは何人いるのか。「現役70歳まで時代」等、実情にあった表現にすべき。
3	基本方針なので仕方ないとは思いますが、全て絵に描いた餅の様に感じました。総理大臣の言葉でも度々発せられますが「安心・安全」、基本方針でも安心・安全と出て来ましたが、安全は確実に実行して欲しい事です、安心は我々の心にあります。安心出来る構想を願いたいと思います。
4	「みやこ」という表現に非常に違和感がある。「住宅都市」では代わり映えないのであれば、シンプルに「まち」としてはどうか。
5	他国を見倣って有形文化財保護に努力するべき。
6	乳幼児の優先しすぎは、一過性の投資となるリスクが高く、分野ごとの将来像の表現は、概念として妥当である。
7	児童館なくさないでほしい。
8	委員会における女性比率が低すぎる点は、昨今の社会情勢をみるに是正すべき。
9	待機児童ゼロにむけた保育園整備は大変評価されるべきことと思うが、保育園の次のステージである小学校における学童の拡充・充実が急務の課題と考える。現役で働く世代が多く区内に流入すれば区の財政に対してもポジティブであり、子育て世代を取り込むような政策が必要なのではないか。
10	コロナ禍における長期休校は、公立学校でのICT環境の差が浮き彫りとなったように感じる。私立学校並みといかなくとも、早急にICT環境は整えてほしい。
11	教員の負担を軽減する目的として、部活動の担任制を廃止し、学外顧問の雇用や、事務的な作業・保護者対応を行う人員を設置するなど、教員が教育に余裕をもって向き合える環境が必要に感じる。
12	区の端の方に住んでいるため、公共施設、サービスの恩恵に与られません。すぎ丸の停留所は近くにないので乗ったこともなく、区役所や税務署へも電車を乗り継いで行かなければなりません。関東バスも荻窪へしか行けません。また、選挙の際の投票所も遠く、投票に行くのを躊躇うほどです。同じ税金を払っているので、サービスもある程度は同じように受けられるよう、配慮していただきたいです。
13	「住まい」そのものが人々の暮らす空間であり、「みやこ」と同義となる。「みやこ」を使いたければ、文法的には「みどり豊かなみやこ 杉並」などの表記になる。国語的に誤りであり、訂正が必要である。
14	以前の基本構想のどこが達成できて何が不十分か、特に未達成の部分をはっきりさせてほしい。
15	この間の区行政では、「地域ごとの個性」は削られ、画一的な駅前開発が進んでいるように思える。
16	子どもたちも親も安心して過ごせる場所の整備とあるが、その中核的役割を担っていたのが、児童館である。これをなくしていくことは、大切な杉並区の財産をなくしていくことになる。

No	意見概要
17	これまでの杉並区の児童館・学童クラブにサービスが悪いという苦情があったのか。その点を十分検証したうえで、安易な「民営化」は避けてほしい。
18	「認め合い 支えあう」では、誰一人として取り残されない社会という点から、差別の禁止を明記することが必須である。「すべての区民が自らの人生を豊かに生きていくことができる社会を築いていきます。」に続けて、「すべての差別を許さない杉並にします。」と明記してほしい。
19	「次世代を育み 引き継ぐ」では、「杉並の次代を担う子どもを地域社会全体で育てていきます。」との書き出しになっているが、続く文章では、杉並の歴史を知り誇りを感じて引き継いでいくことが書かれているのみである。暮らしの基盤を守るために、豊かな自然環境だけでは不十分で、貧困改善に取り組むことが必須である。「杉並の次代を担う子どもを地域社会全体で育てていきます。」に続けて、「そのために、貧困問題の改善に取り組めます。」と明記してほしい。
20	西荻窪132号線道路拡張は不要と考える。
21	インクルーシブな社会にしていくためには、子どもの頃から多様な人と関わるという経験が重要である。個性に応じた育ちをサポートするだけでなく、障害の有無など関係なく一緒に学び、育っていくといった、もう一歩踏み込んだ取り組みをお願いしたい。
22	現在、商店街において、シャッターが閉まっているものの、新しい店舗物件を募集していないところがたくさんある。一方で、飲食店や小売店など、これからお店をはじめたいけれどなかなか物件が見つからないという方もたくさんいる。行政や商店会などが間に立って、物件の所有者と借りたい方をマッチングする仕組みはできないか。また、物件を借りて開業するというのはかなりハードルが高いため、その前段階として、土日だけ借りる、シェアして何組かで借りるなど柔軟な借り方ができれば、未来の開業予備軍を育てていけると思う。一部の自治体では、チャレンジショップのような形で実行しているところもあり、杉並区でも検討してみてもいいのではないか。
23	児童館をなくさないでください。子どもたちの放課後の居場所として必要です。
24	「平和」について章立てをしてほしい。杉並区の歴史として「原水爆禁止署名運動」と過去のもののように記されているが、いままさに世界がこの問題を正面から掲げて真剣に取り組もうとしている。発祥の地杉並区だからこそ、「平和」の運動や教育を位置付けていただきたい。
25	取組の方向性（１）について、「子どもの権利条約に基づき」と根拠となる思想を明記していただきたい。日本は子どもの権利条約を1994年に批准しており、この中には具体的な条文があり、権利の内容がわかりやすくなると思う。
26	「動物との共生」を答申案に入れていくことを希望する。
27	具体的に何が必要で問題なのか、掛け声ばかりでよくわからない。杉並区のこれまでの歴史を考え、地域の連携による、人と人との繋がり方の強化の具体的な方針を示すことが大事ではないか。
28	「子どもの権利を尊重し、子どもたちの声を吸い上げる」のは、現在特に大切だと感じる。子どもの貧困がこれほど増えたり、不登校やひきこもりがもう長く言われ続けたり、ヤングケアラーが問題になったりと、子どもがますます生きづらい状況にあることがはっきりしてきている。
29	児童館が廃止されているが、時代に逆行しているのではと感じる。児童館の整備を入れることを望む。
30	「性的指向や性自認等」について、列記するほど特筆して差別意識が強い問題でもなく当事者たちも「そっとしておいてほしい」という人が多いとも聞くので、削除した方が良く考える。
31	鉄道の踏切をなくし立体交差（高架化）を順次推進していくべき。
32	駅・道路などのバリアフリー化を推進し、ホームドアの設置など必要な対策を強化すべき。

No	意見概要
33	問題意識としては提起されているが、具体策に欠けている。温暖化対策としての脱炭素化は国としても基本政策として打ち出しており、区として国よりさらに積極的施策を打ち出しグリーン都市をめざすべきである。
34	学校や区立公共施設を利用して太陽光発電を設置して電力のグリーン化を図る。
35	区所有の公用自動車をすべて電気自動車にきりかえる。区内公共施設に充電器を設置して電動化を推進する。電気自動車は発電蓄電装置を搭載しているので災害時、停電時に役立つなど多くの点で活用範囲が広い。
36	人生100年時代、生涯学習の環境整備は高齢化社会にむけ必須の課題である。それには図書館の質量両面の充実と居住地域に身近な所に図書館が必要である。また、蔵書の充実も必要である。
37	スポーツ環境の充実は賛成である。高齢者の健康増進病予防の観点からも、区内のスポーツ施設はまだ不十分であり、テニスコート等のスポーツ施設を沢山つくってほしい。
38	東京都の「あなたのまちの地域危険度」に杉並区東部があげられており、この内容の記載がないのでは、真の杉並区がめざすまちの姿を表記していることにならず、危険地域があるという問題点を明記することが肝要ではないか。
39	②確実に起きる災害への備えの重要性について、建物の耐震不燃化や水害対策、都市計画道路の整備などの内容は、どういった状況の地域に優先して行うのかという表記がないのでは意味がない。こういった策には優先して行わなくてはならない地域があるはずである。
40	ソフト面に焦点を当てた災害に強いまちづくりがより一層求められてくることになると思うが、「より一層求められる」のは従来のハード面からの対策である。ハード面の対策がおざなりにならない表記に変更することが求められ、ソフト面はその対策があって初めて大きな効果を発揮するものではないか。
41	今後は、税収減による厳しい財政運営が避けられないという視点に立ち、引き続き財政運営の健全化に努めるというのであれば、「支出削減」という一言を記載するほうが分かりやすい。
42	他の多くの市町村が実施している、道路や上下水道のインフラ整備の削減計画が盛り込まれていない。こういった計画も考え構想に明記し、「区立施設の再編整備・長寿命化の取組」だけではない取り組みを構築していく事を考えてほしい。
43	道路の一方通行路を増やすことは、良質な住宅都市の創生に繋がる。
44	新規の上下水道のインフラ整備抑制は維持費を抑制し、みどりの保全にもなる。
45	取組の方向性（２）は、「区民、民間事業者、NPO等の幅広い地域の担い手を結集し、災害時には役割を分担してみんな災害に立ち向かう共助の仕組みを充実することにより、」へ修正が必要である。「充実すること」でなくてはならないと思う。
46	取組の方向性（１）の中の、大規模公共施設の立地が多くの区民が思い描く、みどりの良質な住宅都市であるのか。記載を再考してほしい。
47	取組の方向性（２）にある「自然環境」という単語は何を意味しているのかが記載されておらず、考えの記載が必要である。
48	重点的な取組に「災害に強いまちの基盤づくり」とあるが、こういった対策は、やりやすい地域優先ではなく、必要度の高い地域から実施されると考えられるが、具体的にはどの地域を考えているのか。荻窪駅周辺などと地域を記載している項目もあるので、きちんと記載してほしい。
49	重点的な取組で、「災害時の拠点となる震災救済所」とあるが、「どの地域にある震災救済所のいくつかは、大震災時に危険な地域の中にある」という記載がまるでない。記載のない構想では、取組や方向性があやふやであり、地名の明記を含めた記載が、地域住民が協力するにあたって必要である。
50	この項目のどこにも、「みどりの創出」「みどりの保全」などの言葉がない。「みどりの住宅都市 杉並」と謳っているのに、まちづくりにはみどりが欠かせず、記載をお願いしたい。
51	重点的な取組で、駅周辺の特徴など、地域ごとに個性あるまちづくりを進めるとあるが、阿佐ヶ谷駅周辺の特徴や魅力は、けやき屋敷のみどりである。ここは、今後どのようなみどりを考えていくのか。

No	意見概要
52	「(1) 時代やニーズの変化に弾力的に対応できる財政基盤を構築する」とあるが、この項目には、「歳出削減」という言葉が必要であり、10年後に記載予定では遅すぎるので、この基本構想で明記してほしい。
53	動物との共生は、人のところに、本来あるやさしさや、いたわりを生み出すと信じる。
54	「みどりの保全」は区民の望むことであり、阿佐谷の屋敷林を伐採するのをやめてほしい。
55	「国籍や性別、障害の有無によって差別しない」という施策の原則を区民に示してほしい。
56	区の施策として共生社会づくりに必要なことは、弱い立場に置かれた人を対等に扱い差別しない制度をつくり、そのような意識を区民に啓発することであり、ボランティア活動や社会参加を盛んにすることではない。
57	福祉や共生社会づくりの施策の原則として重要なものは「子どもの権利条約」「障害者権利条約」「差別解消法」である。この3つの条約、法律名を入れてほしい。
58	標題の「すべての子ども」とあるが、ここに「障害がある子ども」を想定しているのか。障害がある子どもが地域の学校に行くことが難しいことではなくなるよう、行政は施策をし、このようなことを「子ども」の章に入れてほしい。
59	児童館を廃止し、学童クラブを学校内に設置することが行われているが、子どものためを考えたら、学童クラブを学校内に設置することは、百害あって一利なしである。「学校設備等を活用し」の文言の削除を求める。
60	基本構想で多用されている「自分らしく」について、曖昧な言葉でもあり、「自分らしく」生きるかどうかは、その人自身が決めることであり、行政が言及する問題ではない。もし施策の原則を示すこととして書くなら、「区民の人権が守られるよう、区は環境を整える」とすべきだと思う。
61	区政経営の仕組みの最適化やデジタルの活用が進めば、区民の生活は少しずつ変化すると思うが、それだけではスピードが望めないと感じる。何が重要かというのは、地域の方々の力であると思う。厳しい財政のなか、頼りにするのはわずかな報酬で活動してくれる、地域の高齢者やごく一部のボランティアであるが、そこに頼れるのも時間の問題ではないか。
62	地域を支える人材を発掘したり育てるためには、子育てを始めた保護者への社会教育をしっかりとやっていく必要があると考える。幼稚園・保育園の段階から、全てがサービスではないということを理解し、地域とのつながりや協働を感じられるような仕組みを構築しなければならないと思う。
63	提言案に、子ども食堂にイベントを組み子どもたちに体験をさせるとあるが、子ども食堂は、子どもたちにとって、日常の中にある小さな体験の場であり、イベントを組んで行う体験の場ではなく、日常であることを認識してほしい。また、体験の場として認める前に、杉並区として、関わることを考えてほしい。
64	学校飼育動物について、各学校で飼養方法が異なることから、過酷な環境で動物が飼育されていることが多く見受けられる。学校飼育動物の廃止の検討と現時点における飼育環境の実態調査をお願いしたい。
65	今年3月に、東京都杉並区の車中に、犬2頭が3日間閉じ込められる事案が発生。給餌給水がされていないことから警察に保護をお願いするも事態は一向に動きませんでした。今回のような事案が起きた場合は、動物虐待(動愛法44条2項)の判断要素から虐待と判断し、その後緊急一保護を含め適切かつ効率的に運用できるよう現場フローを定め指導して頂くよう要望致します。 今年3月4月にかけ、東京都内にて無人住居に猫20数匹が取り残されるという事件が起きました。都にはこうした事案に対し権限を正しく理解して頂き、早期に警察や動物愛護団体と連携しながら迅速に働きかけをして頂きたいと思っております。
66	都市計画道路の整備＝拡張については、「沿道関連住人」だけでなく、多くの杉並区民が、①その必要性 ②法的根拠 ③街づくり について反対意見をあげている。関連住民や区民の多くが認めていない「都市計画道路の整備」という文言を新基本構想に入れることは、やめてほしい。
67	都市計画道路の整備＝拡張については、「沿道関連住人」だけでなく、多くの杉並区民が、①その必要性 ②法的根拠 ③街づくり について反対意見をあげている。関連住民や区民の多くが認めていない「都市計画道路の整備」という文言を新基本構想に入れることは、やめてほしい。

No	意見概要
68	あまりにも曖昧でわかりにくい。今までの「支え合い共につくる安全で活力あるみどりの住宅都市」の方が目的とするところがはっきりわかってずっと良い。
69	重点取組の1番に「気候危機に立ち向かうため、気候変動対策を推進する」とあるが、内容が曖昧でよくわからない。現在の杉並区では、民有地の相続や開発などにより急速に貴重な「みどり」が失われてきており、3番目の「みどりを育み、自然と人の営みが共存できるまちづくりを進める」を1番に取り組みべきだと思う。
70	自然環境調査に基づく生物多様性地域戦略を早く策定し、それに基づいて、各関係部署がそれぞれの役割分担を明確にし、必要な対処をしていくことが必要である。
71	水とみどりのネットワークを構築していくことが、結局は杉並区の住環境をも整え、気候変動対策にも繋がっていくと思う。
72	「地域区民ときちんと向き合い、疑問点や問題とされる点についてしっかりと誠意を持って話し合いを尽くし、区民から出された代案や修正案などもきちんと検討する。「先に結論ありき」のような急速で強硬な施策実行は行わない。検討に必要とされる資料は速やかに公開し、区議会での検討時間を十分にとって、区民意見を十分に反映させられるよう努力する。」という内容を付け加えてほしい。当たり前のことだとは思いますが、近頃は無いがしろにされているように思う。
73	阿佐谷南・高円寺南の不燃化特区にある優先整備路線の拡幅について、建て替えという絶好の機会でありながら拡幅を断念している所があり、優先整備路線にした意味がない。このような問題の解決に向けて、規制や法制度の壁に風穴を開けるようなことを、新基本構想に盛り込んでほしい。
74	阿佐谷北の木造住宅密集地域の道づくりで防災上整備が必要とされた路線がありましたが、その整備計画は半分の距離に短縮されて一時避難場所には届かないままとなっています。これなどは計画変更をしなければ、規制や法制度の壁に風穴を開けることで課題を乗り越えてられたはずですか。どうお考えなのでしょうか。
75	木造住宅密集地域内でのポケットパークになりうる用地の取得について、保育園児の公園用地などといった制度を利用するなどして、公園用地の取得を行い、結果としては震災時の地域危険度が下がるような対策が必要と思う。
76	杉並区の自然環境行政の施策の肝となる「生物多様性戦略」の策定。他区では既に先進的な生物多様性戦略が作られており、大いに参考にして欲しい。
77	杉並区自然環境調査の継続と拡充及び政策への活用。定期的に行われてきた、杉並区自然環境調査の継続と一層の拡充(区民調査員のスキル向上やデータ等の集積・解析体制の確立)と共に、区の施策全般に反映される事を望む。また、公園管理に調査結果が活かされてこなかったという話も聞くので、自然環境調査の結果を行政内で広く共有し、施策にしっかり反映させてほしい。
78	環境及び生物多様性戦略の(公園のみならず)区の全ての施策への反映。「区民ニーズや地域の環境と調和した公園づくりを進めます」とあるが、環境及び生物多様性の施策を公園管理に限らず、区の全ての施策に反映させてほしい。
79	具体的な施策や工程表なしには、適否の判断が難しい。基本的理念は素晴らしい心構えで、これらに異を唱える方はいないと思うが、この理念をどう具体的なカタチで実現していくのかハードルの高い難しい課題である。構想の推進と実現のために、区政にとって基本的な課題は、区民の区政への関心をいかに高めるかではないか。何故、区民が区政に無関心なのか原因の究明と適切な対策が必要である。
80	年々増加する外国人居住者への対応方針が必要と考える。言語や習慣などの違いから、自然増に任せておくと、区内に特別な区域が発生してしまう。
81	自治体間連携強化の関連で、隣接する6区市(北は練馬区、東は中野区、東南は渋谷区、南は世田谷区、西側は武蔵野市と三鷹市)との連携の在り方を考究すべき。
82	最後に、基本構想を長期に亘ってぶれることなく推進するために、区政の評価制度を見直す必要がある。開かれた区政、区政の見える化を推進することは、区民の区政への理解を促進し、区政への関心を高める一助になる。
83	③においてSDGsへの取り組み、さらに⑤では性的指向・性自認に言及されているが、その後の頁では、SDGs Goal 5のgender equality、またセクシュアリティに関する具体的な施政方針を見つけることができない。誰もが住みやすい区、そのスローガンの根幹的部分を成すと考える。

No	意見概要
84	介護分野で仕事をしているが、情報格差が特に高齢者には多く、不利益を被っている方も多く見受けられます。様々な分野において、情報が必要なひとがいても、その情報が、繋がりがなくバラバラに管理されている状況も非常に非効率だと感じている。それを解消するために、ICTツールを活用することで正しい情報を迅速に対象者に伝えられることができ、さらにその状況を一元的に管理できるシステム作りがとても有効だと思う。ただし、その際の個人情報の取り扱いをどうするのがとても難しい課題だと感じている。その解決方法にまで踏み込んだ政策決定をしてもらえると、「住み慣れた地域で永く暮らせる環境づくり」が進むと思う。
85	地域とのつながりがなくなった高齢者が孤独を感じて生活意欲減退が見られると思う。そのためにも繋がれる仕組みづくりはとても重要で、本人の意欲を引き出すアプローチが求められる。具体的にどのような方法を想定されているのか公開いただけると幸いである。
86	ケアラーの孤独について、とても重要であり、特にヤングケアラーはひとりで抱えがちでその方自身のキャリア形成など将来設計に関しても不安を感じており、将来の選択肢を奪わない仕組みが重要だと思う。
87	メニューが多く、更に美しく響きの良い表題に飾られていて、だからメリハリを感じる点が少ない。区にはまだこんな課題があり、3つの基本理念が大切なので、各分野の担うべき将来像はそのどれかに組み込まれて努力するというニュアンスがほしい。
88	防災・防犯とまちづくり・地域産業では、「地区特性ごとの記述」や「地域特性を把握と、メリハリ取り組み必要性記述」があつて良いのではないかと。当町会（及び近隣町会）では、殆んど狭隘道路網であり、大震災の時に、どこへ逃げ、どのように避難するか。では避難路があるか。住民意識や防災訓練だけでは身は守れないので、都市基盤整備の大切さを遠慮なく謳ってほしい。
89	3つの基本理念の一つに「次世代を育み 引き継ぐ」が入れられたのは素晴らしいことだと思う「理念」が地域への子育て支援へ結びつくことを期待します。
90	「インクルーシブ教育の更なる推進」という文言の追加を検討してほしい。日々のふれあひを通して、相互理解は深まるのだと強く感じている。その共に生活し時間を共有する場を更に拡大・深化させてほしい。
91	東京都が定める『子ども基本条例』に沿った指針になっているかと思う。都が条例に記載しているように、杉並区基本構想では子どもの意見をおさなりにしない・施策に反映されるよう取り組むという強い意志・決意を文言で表現してほしい。
92	官民協働での地域課題の仕組みを、ICTを活用してより団体間や区との連携を強化すること大いに賛成である。他方、既存の枠組みの中でを加速させていくのは限界があると感じている。実証実験的にエリアを限定する等でコンパクトな取り組みを行うことが求められるのではと思う。また、その試みの検証後には、一度スクラップ&ビルドをするような形でいくつかの検証モデルを打ち出し、その検証結果を踏まえて新しいモデルを模索するようなやり方を推進出来てないかを提言する。杉並区にとっての状況にも照らし合わせながら、仕様や運用ルールなども有識者や任意で募集して検討進めていくのが良いと思う。仕組み構築にあたって、区費を投入するというよりは、民間から集い走らせるなどの工夫も必要かと思う。
93	災害時要配慮者を地域ぐるみで支える仕組みの充実・強化について、「誰」が「どのように」支えるのかを明確にしておく必要がある。今回のコロナ禍にあつて、役割や情報共有のあり方が明確かどうか問われることは経験済みなので、その反省を活かした取り組みが重要だと考える。震災救援所のみならず、福祉救援所の位置づけやその感染症対策なども部署横断的に実情に沿った内容、想定が必須である。
94	「若者や現役世代のほか～就労支援を充実」「中小事業者の支援」をリンクさせた、地域で働き地域で生活することを縦割りでバラバラに支えるのではない、何かよい取り組みや地域モデルが構築できたらと願う。
95	「シームレスな移動サービス」「MaaS」等、“新しい移動サービス”の活用をうたわれているが、そこには関係事業者との連携も重要になると思う。既存の交通事業者や福祉関連の送迎サービスなど、立場や行政の担当部署の違いもあり連携が容易ではないことも考えられるので、推進する際には偏りのない、幅広い視点で検討いただきたい。
96	感染症などのリスクにも対応は、コロナ禍での反省や検証を活かすものであるべきと考える。

No	意見概要
97	「人生100年時代の多様な福祉基盤」「施設サービスのさらなる整備」が何を意味しているのか不明であるが、「共助の活動支援」「就労や社会参加の選択肢」が既存の福祉事業者や施設等とも連携して、社会資源が支え・支えられる、相互に良い関係を築けるような取組を部署横断的に検討していただけると良いと思う。
98	区は縄文時代の中心的な集落群であったと想定され、巨大な環状集落は都内ではほとんど見られない大発見であり、貴重な存在と考古学協会の方が評価され、世界最古の磨製石斧が発見されていることから、「文教都市・杉並」としてはどうか。
99	区立塚山公園を親子で使える林間学校、施設として「杉並区縄文時代体験集落」として整備、宿泊できるようにしてはどうか。児童・生徒の愛郷心を育むための教育、区の収入源、周辺商店街の活性化、街のにぎわいの創出、他方面にわたり区に貢献できるのではないかと。
100	保育園・学童クラブとは、単なるサービスを行っているのではなく、児童・生徒の人間形成における重要な位置のひとつであり、区は児童福祉、教育の一環と考えるべきであり、本文は「児童福祉向上を目指し、保育園・学童クラブ等においては、子供の成長を支え、親子の心身の健康を守る取組」としてはどうか。
101	コロナ感染の影響で社会全体が混乱し、ますます貧困や孤立が進み課題が見えにくくなってきている中で、黄色信号の家庭にアウトリーチできる地域活動「こども食堂」の存在意義が大きくなってきていることはメディアでも取り上げられ、多くの需要に応えるようになった。国や東京都がこども食堂やパントリーに予算をつけているのに、杉並区では充分活用されていない。「こども食堂」を単なるイベントとしての認識ではなく、地域の中の支援の拠点（食の確保、防災、孤立化防止等）としての位置づけを基本構想の中に取り入れるよう要望する。
102	杉並区らしさがなく、「緑豊かな」や「みどりや水辺」などの表現も、他自治体の話としてもそのまま通じるように感じる。
103	当たり前のことしか書かれておらず、生活者に密着した基礎自治体として、地域住民サービスをどう確保するかという切実な問題について、地道な姿勢に欠けているように見える。そのため、区民に対するメッセージとはなりえていない。
104	ICT活用などはその通りだが、切実なのは、放課後に子どもがどこでどう安全にいて、且つ健全に遊んだり学んだりすることができるかということではないか。
105	「脱炭素問題」に全員参加するのによいが、それよりも現下のかつ長期的な問題はプラスチック、資源ごみその他の廃棄物の処理・リサイクルであって、財政負担も大きい。それに行政と事業者と区民がどう取り組むかではないか。
106	今後10年が計画（構想）期間だが、20年先（2040年）頃の人口世帯、経済、地域社会、行政リソースなどがどうなるかということをおまえて、この先の10年を考えるべき。そうすると危機感が湧いてくるはずである。多くの自治体では、こうした考えで基本構想や長期計画の策定を進めており、答申案には不可欠なデータが文章中にほんの少しでているだけで、「危機感」がみられず、将来こうしようという「ビジョン」もみられない。
107	20年後には認知症独居老人の増加、空き家の増加、コミュニティの変質、区の財政力の低下と行政人材の逼迫などが予想され、また災害がいつ来るやもしれずという状況がある。社会コストの増加や財政資金の投下効率も悪化することも予想され、区内の地域ごとの違いの大きいのも杉並区の特徴かと思う。そこから杉並区ならではの「中長期的な政策課題」が出てくるはずである。計画期間の10年くらいしか見えていないからそうした危機感が出てこないし、それに対する将来の「地域ビジョン」もでてこないのではないかと。
108	これから20年くらいをみると、地域行政サービスのあり方が大きく変わらざるを得ない。限られている区政のリソースを節約しつつ、地域コミュニティをベースとした共助・互助を拡大し、公民協働を進めることが重要だと思う。協働の形や区政経営について、一般的なことしか書かれておらず、将来を展望したうえできちんとしたメッセージが出されていないようにみえる。地域コミュニティをどう位置付けるかが重要だと思う。
109	区の中での地域は、それぞれ歴史、住民、住空間、コミュニティなどの面で個性がある。今後、基本構想を策定後には、区内の地域ごとの課題整理とビジョンに基づくまちづくり計画が必要だと思う。その策定にあたっては、策定方式（審議会方式の大改善）と新鮮な人材が必要と思うので、検討をお願いしたい。
110	都市計画道路132号線の計画には反対である。

No	意見概要
111	都市計画道路132号線の計画には反対である。
112	「はじめに」は、この10年間の総括をしてほしい。ここで分かるのは、自治体間で支援のスクラムを組んだこと、南伊豆に特養ホームを作ったこと、保育待機児ゼロを実現したことなどである。次の10年が、前の10年と杉並区の状況が突然変化するわけではないので、その延長線上でこれから何が一番大きく変化するのかということがあれば、人口動態や年齢変化などのデータがほしい。
113	現基本構想の達成度が%で示されているが、リアリティがない。それほど資料を見ればわかるのか。これだけの達成率なら新基本構想策定の背景になるのか不明である。
114	住宅都市であることは認めるが、みどり豊かはいけれど、「住まいのみやこ」には違和感ある。「住まいのみやこ」杉並という発想は「もりのみやこ」仙台にはなれない。撤回してほしい。
115	取組の方向性（1）について、…多心型まちづくり…交通拠点としてでなく、文化・交流・商業…（文化の前に「自然」を入れてほしい。杉並の駅前は多様で、自然豊かなところもある。
116	取組の方向性のどれも大変大切な未来に向けた問題提起である。この提起に基づいて、当面の課題である阿佐谷北東地区の開発が進んでいるが、ぜひ、ケヤキ屋敷を守ってほしい。
117	性的指向や性自認等にかかわらず、お互いを理解し合うための機会や場所を作ることも大事だが、行政として必要な制度を作ることが先である。この先の10年の構想であり、避けて通れないので、そのことをまず明らかにしてほしい。共助が強調されるのですが、まず公の決意を語ってほしい。
118	0歳から18歳までを子どものくりにすると考えると、この項の内容にイメージがわからない。重点的な取組の2つ目の■にある、「多様な主体」は何か？
119	今、杉並区が抱えている子ども施策で大きな問題になっているのは「児童館つぶし」である。子どもたちや保護者にとって地域の力になっているのは児童館であり、この先の10年も変わらないはずである。
120	「教育振興基本計画」との関連で考えたい。
121	区民とは「区政運営に携わる方々にとって都合の良い区民」なのか。新たな仕組みを構築しても聞く耳持たない行政に期待は薄い。
122	健全な財政運営に努めると、受益者負担の適正化になって、これまで述べられてきた理想論の様な内容になるのか。人生100年時代、元気に活動したい高齢者は、利用料が高くなった区民施設行けないことになる。
123	「ペットや動物との共生」について加えていただきたい。行政と地域がより密接に連携し、諸課題について協力して取り組むことを望む。更に、必要に応じて「基本ルール」作りの推進など、動物との共生に一歩踏み込んだ杉並区独自の「思いやりあふれる、近未来構想を期待する。
124	「第3 杉並区が目指すまちの姿」と「第4 分野ごとの将来像と取組の方向性」に関する部分について、これらの実現、あるいはこれらの目標の土台として、構想の重要な要素の一つに杉並区民の我が街意識の醸成を組み込んで頂きたい。杉並区は大変住みやすいところで、緑豊かな優れた住宅地となっているが、区民はこれらのすばらしい環境を享受することに満足するのみで、自分たちで作り出していく、あるいはみんなで維持・継続していくという能動的な行動の場がほとんどないか、極めて薄いと感じる。同じ23区でも自らまちづくりに関与しようという人の多い区民と大きな違いがあると思われる。区でも、我が街意識を醸成させる、シビック・プライドを喚起する政策を、意識的に加え、区民が行動し我が街を作り上げ、引き継いでいくという基本構想にしていきたい。
125	町会、自治会組織の活性化や近隣祭り、公園メンテのような身近な参加場面の拡大は、区の組織だけではできないものではなく、各町会、自治会、商店会などの組織と一緒に取り組まねばならないが、同時に区内にはすでに数多くのNPOや任意団体の存在しており、これらの総力を結集すれば多くの選択肢が生まれるものと思う。
126	区内のさまざまな街単位、地域単位ごとに、エリアの実情に合った杉並の街意識の向上策、シビック・プライドのネタの発見を試み、発信をしていくべき。



No	意見概要
127	杉並区では「通りの名前」「坂の名前」「町名のいわれ」など、町に関する説明板や意識喚起の場が非常に少ないと感じる。自宅の近所に「道灌坂」や「縄文坂」などの坂があるが、知る人は知っているだけで、一向に普及しません。こうした地域の見えない財産をもっと目に触れるようにしていただきたい。他区では町名や坂名などの存在の表示や説明に、熱心に取り組んでいるところもある。町名、通り名、坂名などを大切にすることは街を愛すること、我が街感を持つスタート台であり、また効果の大きなアクションでもある。
128	現代社会においては、病気や事故、失業など環境の急変により、突然、マイノリティとなり、不利益を受ける立場になる不安をすべての住民が等しく抱えているといえる。このような環境の中で、行政として、特に目の届きにくい状況に置かれている外国人に寄り添い、生活環境の改善に積極的にかかわることは、日本人居住者の方々にとっても、重要なメッセージであるように思われる。このようなテーマについて意味のある議論を行うためには、少なくとも、直接、外国人住民に議論に参加していただくことが、必須である。海外をルーツとする居住者の直接の議論参加へのさらなるご尽力をお願いしたい。
129	コロナ禍では、生活に癒し安らぎが欲しかったという理由で、新たにペットの飼育を始めた世帯の増加も見られ、その他、老人ホーム、病院でのアニマルセラピーなど、ペットの存在が人間の精神的な健康に寄与するという考えは現在では、広く共有されているように思われる。今後対策が求められる独居高齢者世帯 においても、多くのご家庭で、かけがえのない唯一の家族として親族や介護士に代わり24時間心に寄り添う、不可欠な存在ともなっているのではないかとと思われる。このような中で、今まで以上に、ペット飼育の環境の改善について、地元行政機関が積極的に関与する意味が存在するように感じる。ペットとの共生について積極的な将来を展望すると、民間団体との協力も意識しながら、多くの検討課題がある。長期構想の中に組み入れていただき、行政だけではなく粘り強い地域全体で検討する課題としてほしい。
130	歴史を大事にするという点から、町名について再検討する必要があるか。歴史好きの人にとって、古い地名は、その土地の由来を知る重要なよりどころとなります。成宗のように、歴史上の人物に由来するもののほか、地形、職業身分、文化的施設の名前に由来するものなど、歴史そのものでもある。調査をして、結果によっては、町名を旧に復するものも次の時代に歴史文化を継承するために現世代が行うべき課題のように思われる。
131	洗練都市らしく、もう少し果敢にチャレンジしてみたいか。一例を上げれば、「動物との共生」である。もっと身近に言えばペットとの共生です。基本的な考え方を構築する必要があり、基本構想に加えていただきたい。
132	「みやこ」という言葉に「何らかの特徴を持ち、人が集まり楽しく暮らせる土地」という意味があるということは、広く社会に知られているとは思えず、違和感がある。「みどり豊かな住まいの街」あるいは「みどり豊かな街」にした方がよいと思う。「みやこ」という言葉を使いたいということであれば、第4 分野ごとの将来像と取組の方向性の「将来像」も、すべて末尾の「まち」を「みやこ」に入れ替えないと整合性が取れないので、試してみてもどうか。
133	取組の方向性（3）について、「公的な介護によらない社会（公的介護を行わない）をつくります」と理解される可能性があるので、「公的な介護の充実に加えて、家族や関係者を個別に支えている人（ケアラー）が孤立したり、・・・」といった文章に変えたほうが良いと思う。
134	重点的な取組に記載されている「誰もが気軽に同じ時間を共有できる場所を確保すること」については、公立小中学校の施設の地域への開放を明記しては、いかがか。
135	施設の確保だけでなく、資格を有する職員など、必要な能力を有する人材の配置も「質の高いサービスの提供」には必須であることから、こうした点も記載した方がよい。
136	場所の確保について、開放による学校施設の利用、学校内に設けられている放課後クラブの開放なども行われるべきと考える。子どもの保護者だけではなく、地域の多くの住民が学校施設を利用し、学校に関心を持つことが地域運営学校には必要であり、そのためにも学校施設の地域への開放が積極的に進められるべきと考える。
137	人生100年時代において生涯学習としての社会教育の役割は、非常に大きいので、開放による学校施設の利用などを含めて進めることが重要と考える。

No	意見概要
138	NPO等活動資金助成も、地域課題を解決しようとする団体の活動を支援することが目的なので、助成対象をNPO法人と地域大学受講生のグループだけに限定するのではなく、すぎなみ大人塾受講生のグループや一般社団などに広げて、幅広い支援のツールとすべきだと考える。
139	区民のニーズを十分、反映した施設の再編を進めるようにしていただきたいと思う。
140	福祉救済所協定を結んでいる側としては、杉並区との間での共同訓練の実施など、協定だけではない互いに経験を積んで課題を共有する機会など、具体化させていく必要がある。
141	杉並区域では駅近でそれなりのキャパシティをもった多目的かつ多機能なホール、大規模公共施設がないように思える。様々な用途に応えられるホール、地域サークル・グループのワークショップにも使用できる研修室・集會室なども備えた複合施設ができると、新たな賑わいや活気につながると思う。
142	医療・健康におけるICT活用は時代の趨勢でもあり、構想で示されたとおりに思う。情報格差への眼差しやサポートは重要だと考え、ICT活用については重層的な構造を組み上げていく必要がある。まずは主要ネットワークとして、ケア24、病院、福祉施設等との間で構築していくこと。そこにアクセスすることで、必要な情報が得られ、社会的孤立や疎外が緩和されることが必要である。
143	取組の方向など大いに共感できる。この中で言われているICTの活用については、情報格差への眼差しやサポートは重要だと考え、ICT活用については重層的な構造を組み上げていく必要がある。
144	重点的な取組の中で語られる「多様な福祉基盤の整備」については、新たな拠点の整備ということもよいのですが、既存のリソースを活用していくことも検討されるべきと思う。時代に合わせて既存の社会資源が一步でも二歩でも踏み出して、地域社会での役割強化に努めていくことも大切と考える。
145	地域共生社会の実現という地域福祉の今日的課題を解決していくためには、意思・意欲と能力をそれなりに持ち合わせる社会資源をつなぐ取り組みが大切だと思う。この社会資源とは福祉を生業とする施設・事業所のみならず、社会貢献活動に志のある一般企業も含む。今後の区財政の厳しさにも触れておられ、その通りだろうと思うので、地域の力を寄せ集めてセーフティネットを築く必要があると考える。
146	風水害に対する備えとして、震災救済所等の災害時の拠点における長期の停電への対策に取り組むことを追記することを提案する。
147	コロナ渦を踏まえた地域の防災対応力の強化として、災害時の拠点となる震災救済所の機能（換気・冷暖房機能を含む）の拡充や備蓄物資の拡充、在宅避難を可能とする機能を備えた住宅整備の支援することを追記することを提案する。
148	気候変動の緩和策は記載されているが、適応策として取組む内容が記載されていない。東京都気候変動適応計画を踏まえて、適応策として杉並区が取組む内容を追記すべきと考える。都市型水害、超大型台風等の異常気象への備えとして「防災対応力への強化」について記載することを提案する。
149	SDGsという国際目標は答申案ではP. 3にわずかに触れているところであるが、自治体によっては地元企業に積極的に「宣言」を呼びかけているところもある。杉並区でも共有可能な目標としてSDGsを前面に出してはどうか。
150	「みどり豊かな住まいのみやこ」という一行のキャッチフレーズと3つの基本理念という構図はわかりやすく良いと思う。
151	「学校施設等を活用し、子どもたちが、安全・安心に過ごせる場所を整備します。」とあるが、どのように整備するのか具体策を示してほしい。
152	子育てを地域社会でさせる取組の充実について、「質の高いサービス」とはどのようなものか具体的に示してほしい。
153	一つ目の○の項目において、「主体的・対話的で深い学びをとおして」とあるが、これは、小・中・高の学習指導要領で掲げられている学び方の話である。この学びを通して、生涯の学びに結び付けるという意味になると思うが、その環境とはどういうものなのか具体的に示してほしい。

No	意見概要
154	二つ目の○の項目において、「一人ひとりの状況に応じた学びや探求を支えるICTの活用を図ります」とあるが、小中の児童生徒全員に一人1台のタブレットを配布での活用について、使い勝手を良くしてほしい。
155	「学校施設の有効活用とによる様々なスポーツの場と機械を広げるほか、それを支える地域人材等の確保を含めたスポーツ環境の充実を図ります。」とあるが、部活動との兼ね合いをどのように考えているのか。
156	各学校の教育調査の評価項目に小中一貫教育について問うているのに、基本構想に小中一貫教育やコミュニティスクールについての記載がないのはどうしてか。
157	引きこもり、高齢世帯、貧困母子家庭等支援が必要な人に対して社会福祉協議会やNPO等支援機関の存在が周知されていないと思う。
158	問題を抱えている人が福祉の網から漏れない工夫、情報提供をお願いする。
159	基本構想を区民にわかりやすく伝え、内容を理解してもらい、関心をもってもらえるようにしたほうがよいと思う。
160	どのような状況の区民にも、等しく伝わり、また区民の声が迅速に届く仕組みが必要だと思う。
161	定期的に成果などを振り返り、区民にも基本構想を常に意識し続けることができるよう働きかけ続けることが大切だと思う。
162	どれもすばらしく、杉並区がそうなってほしく、そういうことだとうれしいと思うが、細かい記載がなく、いつまでに実現、具体化等分らなかった。
163	この10年、実現できたのか、数値化されていないので改善点が分からない。
164	子どもの居場所が少なくなっているので増やしてほしい。児童館は無くさないでほしい。
165	公園、広場を増やし、緑豊かにしてほしい。
166	デジタル化若者にはよいが、高齢者にとっては、活用することが難しくわからない。高齢者はペーパーでなければだめである。
167	防災・防犯・災害に地域の人の支え合いがないとだめである。近所の人とつながりを持たないとだめなので、町会・自治会に入会して近所づき合いをしてもらいたい。
168	農地が減っているなので、その対策をしっかり作ってほしい。
169	高井戸区民センター駐車場使用料の上限設定をしてほしい。週1回利用しているが、たまに4時間で2000円を超えると高いと思う。
170	区内の体育施設も駐車場一般しようがないのも利用可にならないか。
171	車線の幅が車でギリギリなので自転車でも、車で走っていても怖い。
172	すぎ丸の運行を善福寺地区にもしてほしい。
173	環状八号線右折時信号の統一化。右折指示の場所と青信号右折の場所が有り分かりにくい。

No	意見概要
174	若い子育て世代が住みたくなるような街をつくってほしい。また、中高生など高学年になる程公共の場（公園、図書館等）には居場所や遊び場がないのが現状である。武蔵野プレイスのような施設があるとつながる場所や住みよい街になるのではないかと思う。今の図書館なども変化、変革が必要だと思う。
175	社会経済状況の悪化や税収不足を新たな税外収入で確保する必要があると思う。（他区のような入札による自販機設置、広告、他）
176	杉並の医療費は魅力の一つであり、杉並の魅力をもっと表面に出し、若い世代の確保と共存が必要だと思う。
177	地震は突然起こる。木造住宅集中地域の整備を急いでほしい。
178	ケアラーの孤立問題の記載があるが、ヤングケアラーの存在を耳にする。頼る機関がある、人に頼っていいのだという事を伝えていってほしい。学校で相談しやすいような状況を作るなり、身近にそういう友達がいたら大人に伝えられる環境づくりをしてもらいたい。
179	地方に住む親の介護が始まったときに、地方に住み続けながらの遠隔介護と杉並区内に住ませるの介護の両方を考えてより良い選択をしたくても、相談に行く縦割りの相談機関しかなく、困り果てた経験がある。区市町村を越えた介護の全体像をつかめる話ができる相談コーナーのようなものを希望する。
180	虐待や孤独など心に問題を抱えながら生きている人をサポートすることに力を注いでほしい。また、同級生などに困っている人がいたら、大人に情報を流すということをためらわず行ってほしい。この場合個人情報に関係ないと思う。
181	小学生や中学生などがボールを使って遊ぶ場がなく、道路でキャッチボール等をして、トラブルになっている状況を耳にする。
182	防犯カメラの設置や通話録音機の貸与など機器の力を生かすことは有効かも知れないが、ICTへと広げて積極的に利活用しようとするのと法整備にも関わってくるため、国の仕事の範疇になってしまい、自治体だけで実施できる範囲を超えてしまう。それよりも、地域の人と人の繋がりのあり方、隣人との関係を密にして互いに声を掛け合えるような地域社会作りを先導することの方が重要で現実的と考える。
183	移動環境の創出が掲げられているが、人口が減少していく傾向の中で、これ以上の鉄道や道路の連続立体交差化などは投資コストを回収する見込みが立たないように感じる。区内での移動がそれほど不自由ではない杉並区の中で、MaaSと言われても大袈裟であり現実的とは思えない。自転車走行空間の整備やバリアフリーのムーブスを拡充する方が現実的と考える。
184	ICTを活用した医療情報・介護サービスの提供が挙げられるが、現実味に欠けている。現役世代から若者世代、これからの人材についてはICTの利活用が重要と思うが、医療・福祉・介護の現場へのICT普及は様々な研究はされているものの、成功例はほとんどない。ICTで何でも解決できるという夢を追うのではなく、人間社会だけが人を支えられるのだという現実を直視して、医療・福祉・介護の人材育成に取り組むべきである。
185	福祉・地域共生について、ICTで共助できるなどという夢を追うべきではない。助けが必要な人は、ICTを利用できない人である。地域に貢献したいと思うような人材を育成することが、未来の杉並を豊かにすると考える。
186	「災害に強いまちの基盤づくり」について、気候変動に伴う気象災害の激甚化が予想され、区内においても風水害の影響が大きくなる可能性が想定される。予測困難な災害に対応するため、また平常時の良好な住環境・みどりの確保のために「グリーンインフラ」の活用が重視されているところです。グリーンインフラについては、「環境・みどり」分野の重点的な取組として記述されているが、防災の側面を主体にして本項にて位置づけるのが適当ではないかと考える。
187	廃棄物に関わる様々な課題のうち「食品ロス」のみが取り上げられているが、国際的に目下の課題とされているのはプラスチックであり、都のゼロエミッション東京戦略でも特記されている。プラスチックごみ問題の本質的な解決のためには、製造サイドでプラ製品の製造を抑制するほかありませんが、その経営判断の材料として消費者＝区民の行動が大きな鍵になる。プラスチックごみ問題についても積極的に取り組まれるよう、また関心喚起のためにも、本項で言及があると良いと考える。

No	意見概要
188	都市農地が良好な状態で維持されていることが、杉並区の重要な地域特性の一つと捉えている。農地があることで、風景・景観だけでなく、生物多様性の保全、水源涵養、雨水流出対策（防災）など区民が直接・間接に享受できるメリットが様々あり、本項の記述で農地の存在そのものの価値がより明確に示されると良いと考える。
189	「多世代に向けた環境学習等による環境配慮行動の促進」について、世代ごとに効果的な情報発信を行っていくことは重要ですが、行政⇒区民や市民団体⇒区民という発信の仕方では限界があると感じる。環境配慮行動と消費行動は密接につながっているため、区内事業者と連携して情報を届ける手法を検討されてはどうか。
190	職員の専門性の強化、民間人材の登用について言及されており、いずれも重要な姿勢であるが、SDGsの実施原則でもあるように「統合性」の向上も重要である。従来のセクションにとらわれず、複数の政策課題を統合的に解決できる政策手法の立案・実践ができることが、現在SDGsの観点から、地方自治体の職員に求められていることであると認識している。SDGsでは「透明性と説明責任」が求められており、「区民目線での戦略的な広報」とあわせて政策形成プロセスにおける本質的な区民参加が必要と言える。SDGsの視点、SDGsマインドを持った職員の能力形成について、検討してほしい。
191	「人と動物の共生」について触れられているところが無いのが残念である。区としてどのような指針で「人と動物との共生」を進めていくのか、改めて検討するためにも、基本構想に盛り込んでほしい。令和4年の6月から犬及び猫へのマイクロチップの装着の義務化を踏まえた区としての対応方針、いつ発生してもおかしくない大規模災害時のペット同伴可能な避難所の整備方針などについても、検討していただく上でも基本構想として「人と動物との共生」について記述していただきたい。
192	「認め合い支えあう」は、とっても良い言葉である。全ての意見を聞き、それぞれの立ち位置・価値観を認め、住民の暮らしの心地よさを第一に、互いの存在を認め合い支え合う、特に弱者を支えられる区政を目指すのは区政の基本である。
193	「安心安全のまち つながりで築く」について、「つながりで築く」まちづくりは賛成である。杉並は、観光地や大型商業地区でなく、住宅地区である。日々の普通の暮らしの中で住民同士の柔らかい繋がりを大切に子どもたちが地域で優しく見守られる住民主体の街である。車主体の車が走りやすい街でなく、子どもが走り回りやすい安心安全な住宅地区が素敵である。エレベーターがないと移動できないコンクリート高層ビル街を目指すのではなく、駅前でも人々の暮らしが見える、車椅子も杖の人もゆっくり歩いて個人商店を覗き立ち話を楽しめる、そんなのどかな住宅街の充実を区政の主要目的にされたい。
194	「次世代を育み 引き継ぐ」について、次世代を育むにはまず、子どもが子どものまま心満ち足りた子ども時代を過ごせること、競争・監視・支配に委縮されずに、大人の優しい見護りの中で楽しい子ども時代を堪能することで、大人社会への信頼と希望が生まれ、次世代を喜んで引き継ぐ頼もしい社会人が育つはずである。
195	緑豊かな住まいのまちを目指す構想は大切である。区内には何百年もかけて育った豊かな緑の森・林・並木がかなりあります。涼しい木陰・爽やかな風・憩いの眺めなど暮らしの安らぎに欠かせない。それを伐採してコンクリ建物にしたり、車が走りやすいための道路にしたり、豪華箱物建設は、もう止めにするときである。地球温暖化の危機が目に見える今、経済的理由で樹木を伐ってしまうことなく、杉並の誇りである大切な樹木たちを護る、賢い区政を期待する。
196	罰則や見張り、告発などで脅して犯罪を減らすこともあるが、根本は、犯罪の原因を減らす「犯罪を生まないまち」を目指す区政が理想である。犯罪を生む原因はいろいろあるが、大きな原因は、貧困や差別、競争社会のストレス、弱者の息苦しさにあると考える。家庭の事情で学習機会に恵まれないまま大人になった人、病気や障害や様々なことで差別され 仕事につけず暮らせない人たちを、しっかり支えて人間らしく暮らせるようにするのが行政の一番の役割であり、弱者にやさしい杉並区、誰もが当たり前暮らせるよう、「誰一人取り残されることのない社会をめざす区政」の実現が基本構想のトップに書かれていることは素敵であり、区政に期待する。地方行政の一番の仕事は福祉であり、杉並区が福祉大区を誇れるように心から応援する。
197	駅勢圏を特別視して、今以上の「商業・業務機能の集積」を計ることは賛成できない。大型店舗や多機能のタワーマンションなどは静かな暮らしを楽しむ住宅地区にふさわしくない。わざわざ今以上の賑わい呼び込む、外来客の増加が、のどかな住宅地区の魅力になるとは考えられない。観光地化は、暮らし専用の地域住民にとっては煩わしいもので、一部の観光業者と関連商店の利益のために夜まで賑わう盛り場になれば、安心安全も危ういし、住環境破壊になる。

No	意見概要
198	空き家の発生抑制対策は、ぜひ取り組んでほしい。貧困や弱者差別・外国人差別などで住まいのない人々が多い現状で、空き家・空き間を行政が上手に借り上げ、あるいは支援活用し、住まいを得にくい人たちが安心して住めるシステムを早急に実現してほしい。一人住まいが心細い年寄りも多く、「空き家・空き間の有効安全活用を実現する専門委員会」を立ち上げてほしい。
199	原発電気や火力発電電気をへらすために、公立学校の屋上に、可能な限り、ソーラーパネルを設置するのはいかがか。
200	今や、海も大気にさえも微小粒子となった廃プラスチックが大量に漂っている。レジ袋削減策に続いて、「路上のペットボトル飲料自販機削減」を、全国に先駆けて杉並区が取り組むのはどうか。日本は世界でも飛びぬけてペットボトル飲料自動販売機が多いようで、杉並も100mごと位に自販機が乱立している。街中に捨てられたペットボトル、海岸に何百と流れ着くペットボトル、散歩先や観光地に転がっており、みじめに見苦しいし環境汚染である。ペットボトルを作る資源とエネルギーの無駄遣い、廃棄処分でもリサイクルでもエネルギーを消費、悪いことばかりである
201	住民が気楽に立ち寄れる健康診断、健康相談、健康教育の専用の場所として、人口10万に一つずつくらい保健所が必要ではないか。保健所の職員は、期限付き非正規の派遣・パートの係員でなく、本雇用の保険医療専門職員をメインに運営する必要がある。
202	生活保護・住まい補助などは行政の主動が必須。生活困難者が若い人にまで広がっています。生活保護は福祉の基本で、住民の権利であるが、需給を恥とさせるような空気を行政も作っている。建造物や道路造りに使う税金は抑えて、住民の最低限の衣食住を保障していくことが、文化国家の一番の責務である。福祉は、利益優先にならざるを得ない民営ではなく、住民の暮らし優先の行政が採算を度外視してやるべき事業である。経費削減・職員の業務軽減を理由に民営化・民間委託しているケースが多い。福祉事務所も、福祉を専門としていない非正規雇用の派遣やパート職員が多いようで、生活保護が住民の権利であることを理解できていない、需給を諦めるよう誘導する係員が多いようである。福祉の仕事に誇りを持って働ける安定雇用の専門職員だけが相談にのれるようにする必要がある。
203	子どもたちがやたらに拘束されず、子どものままで楽しい子ども時代を過ごせるような、子どもの居場所、遊び場、たまり場をたくさん作る取組を期待する。今は、次々と児童館が廃止され、学童クラブは地区の小学校内に移されている。以前は、時間制限のある非正規雇用員でなく、正規雇用の公務員が児童館と学童クラブの職員だったので、彼らは子どもたちの自由な羽ばたきのチャンス作りに仕事人生を掛けて取り組めた。子どもの居場所作り政策は、子ども時代の思い出のある人・子育てを経験している人・児童心理の専門家などを交えた策定委員会に任せることを提案する。
204	国の方針で、子ども一人ひとりにタブレットを持たせ、「教育の質の向上」めざす構想に大きな疑問がある。IT・AIが便利な時代で、コロナ禍での在宅学習に役立つが、タブレットに集中できる部屋や机や家庭環境が無い子どもたちもたくさんいる。家庭学習に大きな格差を生む。教室でのタブレット授業は、みんなで一緒に教室にいるのに、それぞれ自分の画面に向かい、友人との学習の交流がない。学校教育は知識や成績をあげるためだけでなくクラスの友だちと顔を見合い言葉を交わしながら学ぶ、先生が肉声で呼びかけ・説明・応答など機械でなく心や気持ちがつながったりぶつかったりすることで心に残る学びや人格形成ができることと確信している。また、タブレットは各人の能力に応じて学習を進めたり復習したりできると言うが、結果は、できる子はどんどん教科を進め、苦手な子は教科が進まない、能力の格差を固定してしまうと思う。ICTはあくまで学習の補助であるように考えてほしい。
205	デジタル化は、能率・効率よく大量の情報をまとめて管理できるが、IT専門家は少なく、多くの職員も住民も複雑な機械に不慣れで、ひとたびトラブルが起きると一挙に大切な情報が漏れたり消えたり悪用されたりなどの危険があちこちで指摘されている。それに災害などで電気が止まったり、充電できない状況になると全てがアウトである。「住民が情報をえやすくなる便利なツール」と評価されますが、情報の得やすさは、デジタルかアナログかではなく、「区政の方向・施策の真の目的・実情・問題点などをありのまま住民に開示する姿勢が行政にあるかどうか」で決まる。IT化推進にまい進するのは基本構想の優先順位に入れられないほうがいいです。
206	「都市計画道路」については防災、まちづくり、交通の項目において、実施が決定済みのように記述されていることに対して、疑義がある。杉並区の「都市計画道路」を決定済みのこととしないで、住民とともに考えていく行政のあり方を示してくほしい。

No	意見概要
207	最近は、東京都の大型開発が加速しており、杉並区も、その方向に行こうとしているようで、違和感を感じている。特に住宅地としての杉並区に、今必要なのは、ひとりひとりの、とくに未来の子供のために、人間としての、豊かな満足感、幸福感、健全な精神だと思う。成熟した東京において、これ以上の利便性、速度を追求するのは、不要と思う。杉並区に、大企業、一部の人の利益のための、大型開発や、新たな高層ビル、道路建設等、住民にとってはいいことない。貴重な、緑や、静かな環境、住民同士のつながりは、一度失われれば、元に戻らない。先進国に比べ、街づくりの方向が逆行しているように思われる気候変動、人口の減少など何十年後の、日本を想像して、住民主導の、街づくりを考えていただきたい。
208	企業が、安心して経営していく上での中小事業者への支援、また新たに起業を考えている方に対しての、創業支援の文言が記載されており、特に意見等はない。
209	基本構想は10年ごとに策定するならば、2012年からの10年間で到達、区民意見の反映がされたのか、検証されるべきではないか。
210	良質な住宅都市・杉並というフレーズは以前もあったが、今回の「みどり豊かな 住まいのみやこ」は意味不明である。言葉としても。
211	阿佐ヶ谷地域開発で、けやきの森を伐採させてまでも、駅前開発も含めて取り組まれている。このことも検証されることなく「駅中心とした、にぎわい、居心地よくでかけたくなる」と、18駅と言いながら、荻窪駅周辺の開発を、阿佐ヶ谷に続いて行うことということか。駅前がどこでも同じようにビルが並び、特色ある街並みが消えている。そんなまちづくりは、杉並には似合わない。文章にあるように、「みどりを育み、自然と人の営みが共生できるまちづくり」を駅前開発ではなく、人々が生活している地域で、横につながっていくように、行政はしっかり手を差し伸べてほしい。
212	人生100年時代について、地域の中に、ボランティア活動、・・・社会参加活動をと、地域とのつながりを大事にするのは、当然だが、孤立しないようICTを活用し、AIを活用して、だれひとり取り残さないとはどうゆうことか。独居家庭が増えているなかでは、言葉かけ、対面でのケアが大事なことは誰もが認めることである。そのためには、専門家や区の職員を増やし人間的なつながりの中で人生が送れることが大事ではないか。デジタルが問題を解決するわけではないので、そういうひとたちの力と、地域の知恵で、頼りがいある地域集団がつかれるようにできないか。
213	子どもの人権、意欲、自治などは集団のなかで成長できることは多くの研究で明らかである。児童館などをなくし、学校施設等の活用で、効率よく安心・安全を図るといのはちがうのではないか。子どもたちの創造性を豊かに育む場所が多様であって、こそである。
214	子どもの学びも、子ども同士、教員との学びあいの中で想像力が増していくのであって、タブレットの中ではない。画一化した教育にならないように、教員の数も、クラス人数も考えてほしいです。政府からは、教室の面積を増やしていくことが言われているが、違うとおもう。
215	地域の力を生かした子育て支援の充実は、横のつながりと、行政サイドがしっかりと誰をも受け止めるという包容力ある施策があつてのことだと思う。
216	デジタル化の促進は、便利に効率化が求められる必要があるが、そこから取り残される人々がいるのも事実であり、高齢者だけではなく、弱者にやさしい政治が身近な自治体に求められていることだとおもう。
217	全体に文章が多く読みにくいと感じました。解釈が広がるリスクはブレイクダウンしていく中で減らしていくことが可能だと思うので、もう少し要点を絞ったシンプルな表現になると良いと思います。また、デジタル化、ICT活用、などは通底する課題であり、それはツールでしかないと思うのですが、「デジタル」が目標であるかのように受け取れる表現が多い気がして残念です。「羅針盤」というイメージは、最後まで読んでもイメージできませんでした。
218	新たな基本構想が「これまでの取組の方向を基本的に継承し～（省略）発展させていく」方向性に賛同します。

No	意見概要
219	<p>①は、⑥まで読むと①は⑥の課題とリンクして、「100年時代」（表側）への希望？の裏側の問題をつきつけられた感じがしました。</p> <p>③→⑤→④の順番の方が良いと思いました。理由は③と⑤は2030年に向けたSDGsの目標含まれると思います。そして、⑤は新基本構想への背景というよりは基本構想を継続していく先の未来像の中にはあると思います。については、SDGsが背景にあることが明らかなので、SDGsとつながるものにはアイコンを付けるのはいいアイデアだと思いました。</p>
220	<p>⑥【デジタル化による区民生活の質の向上】では、区民生活からのベクトルが欠けていると感じました。教育の場面では親御さんたちの心配する声があり、6月20日の説明会での質問に対するご回答で、コロナによって福祉の現場でデジタル面談という方法が必要となったことなどがあげられていましたので、暮らしの中に入り込むICTやDXへの視点は、世界標準の話ではなく、コロナによる影響でもより鮮明になった不安や未来に必要で大事な取組みであることが具体的に書かれることが必要ではないかと感じます。杉並区のデジタル化で遅れていることを認める表現があることは、新基本構想を若い世代の人たち、子育て中の世代の人たちにより届くような答申案となると感じます。</p>
221	<p>重点的な取組「■災害に強いまちの基盤づくり」で、さらっと都市計画道路の整備が挙げられています。3つの基本的理念である「○安全・安心のまち つながりで築く」を大きく毀損する、街のつながりを破壊する事業を、防災・防犯に関わる基本構想として、古くから街の賑わいを作ってきた商店街を切り崩すような道路計画が、杉並区で複数進められようとしていることは、地域防災計画の指向する区民の生命、身体及び財産を守る姿勢に逆行するもので、当然看過できません。</p>
222	<p>概ね理想的な姿が見えてくる基本構想ではある。特に、区民・住民などが主役であることが多く語られている。しかし、現状は、広く区民の声を聴いているとは思えない。基本構想内に時折出てくる「事業者」「民間企業」は、透明性が担保された中で、選ばれていくのか、意見が言える住民・区民・町会・自治会等ごとの差別があってはならないし、役所側との距離の公平性がどれほどのものなのか。</p> <p>現時点で、杉並区側には、都道132号線計画のぐり押しや、児童館廃止など、区長や役所側は都合の良い立場の意見だけを取り上げているように思える。「区長の力」は「区民の意見」ではない。「意見を言えるのは区政の都合の良い方々」とならぬよう、自らを律すべく、区長や役所側、議会側への厳しい言葉も、基本構想の中にこそ欲しいところだ。</p>
223	<p>まちづくりのなかの安全性の確保は避けて通れない。各駅からシームレスに徒歩や自転車につながり・・・と記載があるが、駅前の自転車置き場は、かなり満杯であるし、バス乗り場への移動には、便利だからとその場をただ通過するだけの自動車からの危険性は取り除かれなければならない。</p> <p>はたして、この先20年の安全なまちづくりのなかに、「自動車」優先道路＝都市計画道路は必要あるのだろうか。車中心ではない、すべての住民が安心して利用できる交通インフラ構想をもう少し明確に記載すべきだと思われる。</p> <p>また、各駅前の「にぎわい」を大事にするのであれば、駅前の高層マンションなどは、その発想の逆をいくものであることは明白だ。まずは、歩いて買い物し、お互いよく知る人と立ち話をし、スーパーだけではない個人商店でやり取りをしながら町を歩きかう住民の姿があつてこそ「まちのにぎわい」ではないのか。そのためインフラをこそ、これからの基本構想のなかで策定すべきであると思う。</p>
224	<p>子育てについて、「学校の開放」は、もう少し検討すべきかと思われる。「学校」の建物だけでは賄いきれない、子供の安心や安全を、学校以外の別の場所で担保できたほうが、より子供たちの育成により影響があると思う。</p> <p>「子供の権利を尊重し・・・耳を傾けることができる地域社会」をつくるにはどうしたらいいのか、本当に子どもの言葉を聞いているのだろうか。「シームレス」という言葉は、人流のみならず、教育にも当てはめるべきではないか。地域の大人も含む横のつながり、乳幼児から中学生高校生までの縦のつながり、生まれてから独り立ちするまでの親への援助の時間のつながり。</p> <p>前回の基本構想にあった「少子化対策」が削除されているが、育てていくことに不安があるままでは、だれも杉並区で子供を産みたいと思わなくなる。将来の税収の担い手を育てることは、大事な基本構想の目的である。一方、区の財政については、区長肝いりで勝手に値下げされた土地があつたり、修復して利用できる児童館などを勝手に建替えたりしているようなので、きちんと会計の裏付けを公開すべきであることも、記載したほうがよいと思う。</p>
225	<p>「安全 安心のまち つながりで築く」の項の記載を「まちのつながり、人のつながりだけでなく、すべての生き物の繋がりも大切にします。」とする。</p>



No	意見概要
226	重点的な取組 「■ 災害に強いまちの基盤づくり」の項の記載を「延焼遮断帯となる緑地や都市計画道路の整備」、「生物多様性に配慮したオープンスペースの確保など」、「風水害に対する備えとして、流域治水を進め、雨水流出抑制施設の設置などの流域対策に取り組みます。」とする。
227	「世界的な課題である気候危機への対応のみならず、様々な環境問題に地域全体で」の記載を「世界的な課題である気候危機への対応のみならず、生物多様性の喪失など様々な環境問題に地域全体で」とする。 取組の方向性 の(3)の項を「(3) みどりや水辺を育み、自然と人の営みが共存できるまちづくりを進める」とし、「○3つの河川を活かしたまちづくりを進めます。」、「○杉並区のみどりの基盤となっている屋敷林の保全を進めます。」、「○水辺の風景を再生し、人と川のつながりを回復する。」を加える。
228	重点的な取組「■多面的な機能を生かしたグリーンインフラ(※)の整備」のグリーンインフラの説明に、「雨庭、雨水タンク、スポンジパーク、バイオスウェール」など具体的な整備方法や装置を挿入する。 重点的な取組「■持続可能な農地の保全」を「■持続可能な農地や屋敷林の保全」とする。
229	基本構想の文脈の中に突然登場し、特に、「すまいのみやこ」という表現は意味不明である。このままでは、区民の共通理解は得られないので、再度、新しい表現を検討することを要望する。
230	この項目の中に学校・学校教育が欠落している。家庭教育、社会教育の円滑な推進と教育相談体制の確立には、学校教育との連携・協働なくして、その実現は困難である。
231	学びのまちを実現していくには、学校運営協議会の存在を欠かすことはできない。本基本構想と同時に検討されている教育ビジョンの中で触れられているとの情報もあるが、総論たる基本構想の中で位置づけてこそ、各論たる教育ビジョンとの整合性がとれる。社会教育と学校教育との協働により誰一人として残さない教育が実現していくと考える。
232	一区民としての基本的な願いは、基本インフラの整備、治安と防災、自然環境の維持・教育環境の一層の改善です。区役所に行く、エスカレーター脇に立つ職員が居なくなったが、いまだに一階ロビーには、4〜5人の案内係も居られる。一人で相談に行く、二人の職員が対応されることが多いが、過剰サービスは望まない。デジタル化による区民生活の向上は有難いが、先ずデジタル化により、総花的でなくメリハリをつけて、区行政自身の効率化・人員削減を図り区民税の低減を目指すための姿勢を表して欲しい。逆に、区民に対しては区の行届いたサービスを望む前に区民として果たすべき規律を持つ必要があることも具体的且つ積極的に啓蒙する提案をして欲しい。
233	杉並区が目指すまちの姿 「みどり豊かな 住まいのみやこ」が審議会の明快な基本構想と位置付けられたことに共感を以て大いに期待する。SDGsを我々現代人以上に全うした紀元前の縄文人は、縄文犬とも共生していた。このことは日本最大の三内丸山縄文遺跡で示されているが、今回の展望の中で「動物との共生」の言葉がなく、基本構想の中にも一語もないことに驚いた次第です。海外では犬のんびり散歩したり、有名ホテルのレストランまでシェパードが入れる環境や、湖岸の一部を犬だけのために開放して地域内の交流を図っている。杉並区の約2万頭の愛犬がいるなかで、ペット犬を通して若者男女との会話がはじまり、地元での交流が既に始まっている。具体的には善福寺川緑地公園で遊ぶ保育園の園児が犬と交流する姿を見て、ボラティアで老人ホームを犬が訪問し交流する話を聞くにつけ、まさに「住まいのみやこ」の微笑ましい一例に思えるのである。このような環境は、地域社会連携を深め、次世代を育むことに繋がることを確信する。数多くのペットの中で、犬の話を取り上げたが、杉並区の公園は犬の立ち入り禁止と聞く。小さい公園への立ち入り禁止はやむを得ない面もあろう。一方、犬の立ち入り公園まで遠くて行けない為に厳寒・灼熱の舗装道路を散歩させざるを得ない、裸足の犬がいることにも配慮して、せめて区立公園の限られた一部への立ち入りを認め、可能であればDog Runの場所を設けるのも一案だと思う。動物愛護の観点、教育の観点、心の安らぎの観点からのみならず、区内2万世帯の犬の飼い主が、行き会う区民との交流を一層深めることに繋がるからです。飼い主は犬の立ち入りの自由を得る以上、厳しい規律が求められることは当然と思う。規律が守られているかボランティアを募り管理することも検討に値しよう。支え、支えられる地域社会をつくること、区民としての責任の自覚にも繋がると思う。 以上の観点から、ペット動物との共生について基本構想に組み入れない理由は見い出せない。さらに今後の指定された区立公園への立ち入りの自由と飼い主が守るべき規律・罰則規定も区条例に規定して、杉並区が模範となる「住まいのみやこ」を実現する一助として頂くよう強くお願いする次第である。
234	区の財政の基盤は、税収です。それは、人口の増減と同時に就労人口に左右されます。働いて税金を納める人が、区を支えます。この時、就労年齢にも関わらず「働けない」「税金を納められない」人の割合が増えれば、区政は計画通りには行きません。そこで重要になるのが、租税に対する教育と、人間形成に大切な義務教育期間中に「取り残される」ことなく、学ぶ機会をなくさないことだと考えます。 不登校や登校渋り、教職員や保護者による送り迎えが必要な生徒など、どれほどいるのかキチンと調査をした上で、「不登校ゼロ」に取り組んでいただきたい。子どもたちを取り巻く環境は、大きく変化しています。三世代がひとつ屋根の下で暮らしていた昭和の時代とは違い、いまや高齢者がひとり暮らしの時代です。子どもたちは、TVやゲーム機、携帯端末を見ている時間が増え、人とのコミュニケーションが取れない子どもが増えて行くだろうことも想像に難くありません。おそらく、「学校に行けない」子どもは増えて行くでしょう。 そうした問題を直視し、あえて「不登校ゼロ」を謳うことで、学校内や地域社会での取り組みが活発化する機会を創出していただきたいと思えます。 租税教室は、各小学校在任意に税務署に要請しているようですが、これを強く推していただきたいと思えます。租税を学ぶことで区政や働く人たちへの感謝の念が生まれ、社会に対する認識が深まります。税金は、倫理社会の時間に学ぶと聞きましたが、租税教室は、よりリアルな学びが期待できます。これは、ICTを活用した学校教育の質の向上と同じくらい重点的な取り組みであると考えます。

No	意見概要
235	「将来像」には、「みどりあふれる良好な環境を将来につなぐまち」とありますが、客観的に見て「みどりあふれる良好な環境」といえそうな「まち」は区内でもわずかな箇所に限られます。それを「将来につなぐ」とありますが、屋敷林などの緑が年々姿を消しているのが現実です。紋切り型の言葉を並べた「将来像」からは、なぜ、都市に緑が必要なのか、それを杉並区はどのように守り、育てて行こうとしているのかという、哲学も、意欲も感じられません。
236	「安全 安心のまち つながりで築く」の項の記載を「まちのつながり、人のつながりだけでなく、すべての生き物の繋がりも大切にします。」とする。
237	重点的な取組 「■ 災害に強いまちの基盤づくり」の項の記載を「延焼遮断帯となる緑地・屋敷林や都市計画道路の整備」、「生物多様性等に配慮したオープンスペースの確保など」、「風水害に対する備えとして、流域治水の考え方を基盤に据えて、雨水流出抑制施設の設置などの流域対策に取り組みます。」とする。
238	取組の方向性 の(3)の項を「(3)みどりや水辺を育み、自然と人の営みが共存できるまちづくりを進める」とし、記載を「みどりや水辺などの自然環境を、区・区民・事業者等が協力して守るとともに、防災機能の向上や生物多様性の維持・確保、貴重な屋敷林や都市農地の保全など、みどりが持つ多面的な価値や役割を発揮 できるまちづくりを進めます。」とし、「○3つの河川(妙少寺川、善福寺川、神田川)を活かしたまちづくりを計画し、水辺の風景を再生し、人と川とのつながりを回復することに努めます。」を加える。
239	この基本構想に「都市計画道路の整備」がはいっている。今回西荻窪の132号線が優先道路となり沿道住民の反対意見を無視した形で都に認可を取得したことは大変残念に感じる。この70年も前のしかもいろいろの不備のある、疑問符だらけの道路拡幅の先にある利権に満ちた駅前開発にどうして行政機関である区が熱心なかわからない。今あるこの西荻窪の街並みが好きで暮らしている、わざわざ遊びに来るたくさんの人の意見をもっとよくきき、今の状況を保存する、保存したままで防災措置を施すことはいくらでもできるのではないかと壊してしまうと元通りにはできない。今のままで進化する方法はいくらでもあるはず。道路拡幅は決まっているからするということなんともおそまつな理由で、あれこれとってつけたように防災を語ってみたりされても、こちらは何十年も生活をしてきてる場所を追われるいわれはないはず。この拡幅にかかる費用は莫大であり、南口10メートルで突然左折するS字クランクの謎の道路をつくるために投じる必要性は本当にあるのか今一度考えていただきたい。工事を急いでいるようですが、6000筆を超える道路拡幅反対の署名の重みを自身のこととして感じていただきたいです。新基本構想には「すべての人が認め合い、支え、支えられながら共生するまち」を実現していくためとあります。本当にそうあってほしいです。
240	定期的に各地域で様々な機関や住民同士が話し合える場があると良いと思います。既存の活用を考えると区民センター協議会の役割が重要だと思います。イベントの開催だけではなく、地域の現状を共有し、課題整理し、自分達で出来ることを考えて行く。その様な場に、協議会がなれると良いと思います。また、社会福祉協議会との協働の場の設定も良いと思います。
241	区の職員自身全員が、区民と協働に考えるという視点を持って、関わって下さることを望みます。それには、まず、区の組織自体の在り方も検討されると良いと思います。縦割り行政の弊害を言われている様に、制度は縦割りになっていますが、地域での暮らしは、全てが共生の状況です。制度を横断的に見渡せる部署が必要だと思います。(或いは、それをつなぐ役割の職員等)そして、慣例ではなく、現場から新しい発想が持てるような、柔軟性を持たせてもらえると良いと思います。区の職員自身が、元気に楽しく仕事ができるという事が大切だと思います。
242	基本構想は「杉並区にかかわるすべての人」として共有するとして、「行政」「民間事業者」も区民個人も同列に置いている。しかし、行政は住民の切実な要求でもない事業を、権力的に一方向的に進めている。また、企業は、かつての公害問題、今では劣悪な雇用環境の放置するなどコストパフォーマンス、最大の効率・利益獲得のために、経済の自由を根拠に住民、労働者の命・健康を害することがあってもすすめてしまう。行政が、利権がかかわる事業を一部の関係事業者・住民との間で談合してすすめることはあってはならない。ましてや、行政の進め方に反対する区民にたいして損害賠償請求をおこすことなどもって他である。補助221号線は、住民を追い出してまで既存道路を拡張する必要性などまったくない計画である。住民からは拡張要求など出ていない。この道路拡張計画は、防災など口実であり、中野区駅周辺整備を進めやすくするために杉並区民、地域の環境を犠牲にするものである。基本構想を共有するとしても、反対意見を持つ区民の人権を強大な権力をもつ行政、その行政と一体となった企業から守られるようにすべきである。杉並区政の行き過ぎた民間企業依存をチェックして、公平・公正な本来の行政に立ち返るべきである。コロナパンデミックをとおして、住民の健康と命を守ることを最優先にする行政の重要性がわかった。施策を再構築すべきである。富裕層がより富み、低所得層がますます低所得に追い込まれる格差拡大、年々巨大化する自然災害の元になっている地球温暖化に歯止めがかけられるようにすべきである。早急にこれまでの利益・効率最優先にすすめる基本構想による施策を切り替える必要がある。脱炭素社会に向けて全員参加の取り組みを強調している。しかし、行政自身が、区立施設のスクラップアンドビルト、必要のない道路拡張の推進、既存緑の破壊など、脱炭素社会への逆行をすすめている。それに一言の反省・自覚がないこと自体が、基本構想の矛盾である。コロナパンデミックを通して、医療、介護、保育、教育など一人一人の人間性・個性を大切にするケア労働に携わる人たちの重要性が再認識された。劣悪な労働環境を早急に改善して、行政として「ケアに手厚い社会」に切り替え、杉並区に住んでいてよかったと言えるようになる基本構想にすべきである。
243	「みどり豊かな 住まいのみやこ」について この先の10年が、ダイバーシティやソーシャルインクルージョンを基本姿勢として、個を尊重しつつ、すべての区民が主体となり社会的役割をもち産官学連携で課題解決に取り組む10年であるなら、「みどり豊かな」は牧歌的に過ぎるし、「住まいのみやこ」は語感の不思議さと内向き志向を感じる。これが現在の杉並区を表しているなら、区民の9割近くが定住意向で、住みやすいと感じる区民が95%というデータからも適当な言い方もかもしれないが、今後10年使い続けるキャッチフレーズとしてふさわしいか、再考を求めたい。

No	意見概要
244	「認め合い 支え合う」について 原文の文章の後に「そのためには、生活する中での不安を取り除くことが大切です。安心、安全に生活するために、ジェンダー平等を追求し、暴力を認めない社会をつくりまします。」を追加
245	「次世代を育み 引き継ぐ」について 原文の「すぎなみの次代を担う子どもを地域社会全体で育てていきます。」の後に「そのために貧困改善に取り組まします。また」を追加
246	前基本構想の進展が未達にも関わらず、新基本構想で新たな環境問題等で危機感を煽っており、前基本構想を棚上げ、反故にするのではないかという感じがした。
247	荻窪駅周辺まちづくりに最初から参加しているが、遅々として進展しないまちづくりにあきらめモードが見える。ある時、地権者から立川、三鷹駅の調査に同行した。調査目的は、自由通路の状況、駅チカ高層マンションであった。駅チカ高層マンションの調査理由は地権者も高齢化し、商売をやめてマンションを得たい商売人もいることだ。また、駅周辺には公共空間がないことから、地権者が高層マンション・商業施設の建設計画に建蔽率を縮小と容積率緩和により出現する面積を公共空間として活用する行政手段によって荷捌き地などを設ける。このようなことは地権者は提案できにくい雰囲気があるので行政サイドからの寄り添い支援であろう。
248	シームレスな移動サービスとは、どのようなものですか？
249	荻窪駅南北通路を24時間通行を要望する。以前、区長との防災懇談会で実施を約束された。
250	西口の荻窪税務署手前の通路と北側の白山通り方向に線路下に自転車通行が可能な南北地下通路をつくるべきだ。簡単にできるものからまず着手すべきである。
251	荻窪駅と西荻駅間にすぎ丸を運行してほしい。
252	荻外荘整備が始まってから武蔵野の原風景である大木の松が伐採されている。緑を大事にすべきである。
253	荻窪駅周辺に狸の親子が出没、ハクビシンもいるが、殺処分を要望しているわけではない。（区はすぐに殺処分に動く）
254	荻窪地域区民センターのビオトープにガマガエルが卵を産みに来ていたが、近くの住人宅にガマガエルが侵入したので気持ちが悪いと区役所にいうと、ガマガエルの卵をすべて処分し、ビオトープのオタマジャクシの卵もすべて処分した。（ビオトープの意味を知っているのだろうか）
255	前基本構想審議会専門部会では、当時の杉並区人口54万人は51万人まで減少し、特に荻窪は減少が著しいとしていたが、大間違いであった。実際は現在57万人余りまで増加しており、今後60万人まで増加と推測している。（数字的に記憶違いがあるかも）
256	『交通拠点となる区内18駅および駅周辺を核とし、』の18駅ではなく19駅であることを杉並区バリアフリー構想（平成25年8月杉並区）に記載されている。本報告書には、バリアフリー化最悪駅はJR荻窪駅、最悪2位は地下鉄方南町駅、最悪3位は地下鉄荻窪駅であり。方南町駅はすでに改造されたので荻窪駅は残された最大の課題であることを記述していない。
257	エイトライナー路線を荻窪駅の地下駅に計画すること。大江戸線のようなニア路線であれば、旧曲線（半径50m）、急勾配も可能であり、JR・丸ノ内線駅の下部に地下駅を設ければ乗換用意である。
258	中央線特急停車ホームに伴うJR西口と丸ノ内線西口を地下改札で一体化する。
259	荻窪駅西口広場は公共バスとタクシー乗り場のみ利用されているがMaaSの時代になると多様な移動手段が出現にたいおうした広場の用途に変える。 青梅街道に溢れるバス停を広場に集約する。
260	JR品川駅と山側のプリンスホテル間の国道上にデッキによる自由通路の計画が進んでいる。自由通路には小型移動設備によるMaaSの利用形態がバースで示されているが、荻窪駅南北にもこのようなプランを描いては如何？ レベル2の自動車運転は技術的にはすでに可能であり、事故時の保険などのソフトの問題だけである。
261	荻窪駅周辺の駐輪場は区内最大数であり、駅勢圏が広いので便利な荻窪駅に集まるが、MaaSによる利用形態によっては、もっと近い駅に駐輪場が必要になり、荻窪に来なくてもよくなるのではないか。

No	意見概要
262	<p>がっかりしたのは、現構想の10年のまとめが、あまりにもあっさりしていて、構想したことがどう実現したのか、どこが至らなかったのか、それはなぜかということが、まったく触れられていないことです。計画の達成率と区民の満足度といったことだけで、「総じて概ね評価できる」とされ、「一方で、今後さらに推進していくべき課題についても様々な意見が出された」としつつ、構想の方向性は基本的に継承・発展させるとしています。「様々出された意見」がどのようなものか分かりませんが、必要なことは、10年の実践の功罪を明らかにし、手だてを検討することではないでしょうか。例えば、災害対策での木密地域の解消は、どの程度進んだのかとか、高齢者養護施設の整備では、予測された待機者の解消がどの程度できたのかなど、具体的な成果と課題をはっきりさせて、次を検討することが必要なのではないのでしょうか。</p>
263	<p>「3つの基本的理念」は、言葉としては入りやすいものになっていますが、「区の基本的な方向性」といえるようなものではないのではないのでしょうか。人権を守るとか、住民自治を基本に据えるとか、区民のいのちとくらし守り、地域の特徴を生かした経済やまちづくりといった、区民の日常のくらしにむずびついた基本的なありようを表現すべきでしょう。</p>
264	<p>目指す姿についても、「みどり豊かな」はいいと思いますが、「住まいのみやこ」いかがなものでしょうか。こんな表現では心は動かないのではないのでしょうか。あまりにも言葉だけの呼びかけで、中身の薄いものといわざるをえません。</p>
265	<p>これからの区のあるべき具体的な方向を示していると思われる分野ごとの方向性では、基本が「継承・発展」に置かれているため、駅周辺のまちづくりや施設の効率性・利便性を活かした再配置、福祉などにおける共助の強調などが繰り返され、この間それらをめぐって新たに起こっていることにメスが入れているとは思えません。例えば、高齢化の進行、一人暮らし世帯の増加などにとまなう、医療・介護などの制度が十分機能せず、隠れた孤独死や医療難民が増えている現実はどう対処していくかといった、焦眉の課題に応える姿勢に欠けているといわざるをえません。</p>
266	<p>区政経営の基本姿勢で示されていることは、詰めていえば、税収増は望めず、区民ニーズはいつそう広がるなかで、「構造改革」ということにあるように思われます。区政を「経営」ととらえてすすめることに違和感を持ちますが、その良し悪しは別として、柔軟とか、発想を変えてとか言われていますが、受益者負担増や効率化、民間登用などによる活性化で存続を図ろうということではかかないと思われます。</p>
267	<p>「これから10年」というからには、審議の最中に起こっているコロナ禍についての検討です。この間露になってきている保健・福祉体制の脆弱さ、地域医療の不備などにどう対処していくのかを示すことこそ必要ではないのでしょうか。災害への備えとしての指摘はありますが、いまのような異常事態にどう対処するか、そのための体制をどう整備していくかは、新構想では必ず明確にしなければならぬことと思われます。</p>
268	<p>都市計画道路132号線拡幅工事には反対します。しかも世の中はコロナで大変な時に多額の税金を使って推し進める意味もわかりません</p>
269	<p>SDGsにおける「誰一人取り残さない社会」という共通理念が重要と思います。しかし、コロナ禍にあって、人々の間の格差が広がって、弱者がより困難に直面していることの前には、もう少し危機感を強くもたなければならぬのではないかと感じます。</p>
270	<p>「重点的な取組」の主旨は、果たして誰なのか、考えました。多様性に対応し、ひとりひとりの意欲や個性を尊重するとなると、行政としての「区」が直接提供できる範囲よりも、民間の組織や個人が主体的に推進していくことが期待される部分の方が大きいのではないかと感じます。</p>
271	<p>都市計画道路132号の件ですが、この区間だけの計画は無意味だと思ひ、また、完全に西荻窪自体が消滅する計画でありますので、事業には反対です。</p>
272	<p>美麗字句で「ごもつとも」あるが、その必然性が見えない。これまでの反省と今後の環境変化の展望という客観的物差しがない。「現基本構想に基づいた区の取組の振り返り」はマクロ的であり個別の評価が見えない。従って、意見できない。 例えば、これまで「…みどりの住宅都市」としてきたが、逆に建売化・集合住宅化が進み、逼塞してきた。その原因を分析しなければ、絵に書いた餅になる。計画・方針立案の礎を明示されたい。 総花的で、目玉がわからない。どれも必要ではあるが、軽重がある筈。これを明確にしないと、期待感や実行度が変わってしまう。</p>
273	<p>「…実施してきた」とあるが、問題は、成果である。簡潔に示されたい。</p>
274	<p>区的环境から見て「適正人口」を想定してもいいのではないかと感じます。それによって、以下の諸課題の対処内容が決まってくる。</p>
275	<p>災害、特に地震と気候は被害が大きいと、確実に迫って来ている。未然防止と災害対処の面から、かなり抜本的方策（東京の一極集中の緩和、杉並区の災害耐力の“南高北低”の是正）が必要である。 これまで民主導で来たため、木密、屈曲・狹隘道路、逼塞状態となった。また、緑地・空地の減少や屋敷林等の有用資源を潰そうとしている。</p>

No	意見概要
276	「つながる社会」について 「してあげる」から「一緒にしよう」というインクルーシブなやり方を強く打ち出す。そのモデルとして、阿佐ヶ谷駅前自然公園をつくり、唯一人工物として「Fika Fika」分店を設置し 杉並区のブランド 「人と自然のにぎわい」とされたい。
277	「区政経営」について 区職員は、窓口で見る限りかなりよくやっている。しかし、「区民の声を聞く」という点で、大きな齟齬がある。“経営”どころではない。「自治の底力」を言う前に、「隗より始めよ」である。まずは幹部から足腰をしっかり鍛えなければならない。自浄作用がない組織は滅びる。
278	「デジタル化」について 随所に出てくるが、こらはあくまでも「手段」であり「目的」ではない。主客が転倒しているものがある。
279	「つながりで築く」について 区民任せ。東京の特徴である「隣は何をする人ぞ」をどうするか。まずは『つながりを築く』ではなかろうか。
280	「自然環境を次世代に引き継ぐ」について 正にそのとおり。貴重な生きるに必須の資源を後世に残さねばならない。しかし、区では防災が喫緊の課題という阿佐谷北で、森を潰そうとしている。本項に矛盾する。
281	「住まいのみやこ」について 語意はそのとおりにかもしれないが、世間通念では「住まい」は“住居”というイメージが、「みやこ」には“京都”といういづれも狭い意味にとられる。背伸びすることもない。
282	「みんなでつくる」について 随所に同様の表現がある。区は手抜き、行政の責任逃れにみえる。特に防犯・防災は行政の力が必須。
283	「駅を中心とした…来街者…観光情報」について 目指すまちの姿「みどり豊かな 住まいのみやこ」と矛盾する。
284	もっと広機能の「緑地」に。道端に植栽をすれば済む話ではない。 「グリーンインフラ」について これまでお題目は“みどり”と言ってきたが実体が伴っていなかった。人間が生きるに必須の自然である。徹底的に“自然”を。正に屋敷林等そのまま残すべき。
285	「子供の権利」について ことさらに言うことではない。今や誤解して「自由」「平等」即ち「自分かって」となっている。
286	「子供の育ち」について 知識偏重になっている。最も掛けているのは「人間性の育成」。日本中の最大課題である。「人間脳」発達を是非。『多世代間交流』は必定。
287	今後10年間を描く杉並区基本構想は、③で取り上げられているSDGs-2030年までに達成をめざす国際社会共通の行動計画、地球上の誰一人として不幸にさせないための「道しるべ」といわれている一取り組み時期と重なります。暮らしに身近な基礎自治体こそ、10年先は「だれ一人取り残さない（取り残されないではなく）杉並（“社会”とすることで他所ごとになってしまう）」、あるいは「誰一人として不幸にしない杉並」の実現を目指す必要がある、という背景の捉えが必要だと考えます。そして、③に掲げた項目の中に小項目として、①、②、④、⑤があると捉えるべきではないでしょうか。国が昨年ようやく打ち出した2030年までの温室効果ガス削減目標の10年とも重なるものです。
288	取組の方向性（1）は賛同するものです。では何をするのか。地球温暖化に歯止めが利かなくなる時点-ティッピングポイント-として残された時間はあと10年。それをどう迎えるかは自治体の方向性を決める基本構想次第です。ところが、「緩和」と「適応」というのでは、手をこまねいているだけ、としか見えません。自治体自ら再生エネルギー由来の電力会社と契約するなど、何と言ってもエネルギーシフトを具体的に進めることだと考えます。 2030年、「誰一人取り残さない杉並」「誰一人不幸にしない杉並」にするためには、この10年間私たちは何をするのか、というバックキャスト思考で基本構想を策定していただきたいと願っています。

No	意見概要
289	<p>各種制度の適用による「サービス」、企業社会から提供される「サービス」とともに、地域社会での市民による「サービス・サポート」が、大変重要なファクターになる時代になったと思います。その領域は、本当にご近所の自然な助け合いから、少し形を整えたボランティアサポート、そして、有償ボランティア（若干の対価が支払われる組織的な活動）に至る、幅広いものではありませんが、そのめざすところは、今回の項目にある「すべての人が認め合い、支え・支えられながら共生するまち」にあると思います。その意味では、従来の基本構想には具体的には示されてこなかった（と思います）「地域共生」という大きな柱が出来たことは、地域で活動する者にとって、大きな励みとなるものです。</p> <p>その視点に立ちまして、現場で活動する者の立場から3点意見を申し上げます。</p> <p>1. 取組の方向性（1）に関連して、現在も地域住民の自発的な活動として、また行政の施策としては「生活支援体制整備事業」の中でも「2層協議体」という形で、このような活動は各地域で活発に多様に展開されています。かかる活動が持続していくためには、最低限の予算付けをするべきだと思います。勿論地域活動は住民の意欲と創意工夫によりなされるものではありませんが、せめて恒常的な会議の会場費程度は予算化されるべきと考えます。</p> <p>2. 「共助」という語句をここに使うことは適切ではないと思います。基本構想答申案で取り上げている助け合い、支え合いは「互助」と言えます。</p> <p>3. 「ICTの活用」が各所に見受けられます。10年先までを見通す基本構想ですから、時代の進展から言えば当然のことではあります。しかし、団塊世代が分かれ目かもしれませんが、それ以前の年代のものにとっては、高いハードルに感じられる方たちが一定数おられると思います。そのハードルを低くする施策も勿論必要であり期待するところですが、その方向だけで問題は片付きません。取り残されていく方たちも確実に存在し続けます。そのカバーをしていくことも、しっかり留保されていくことを望みます。</p>
290	<p>SDGsに言及しているが、安易な取り上げ方で、本質的な理念と総合的な目標が反映されていない。「誰一人取り残さない」政策とは格差の是正である。また、すべての取組で「ジェンダー平等」の促進が求められている。それが「ジェンダー平等の主流化」であり、構造的な変革が必要であるが全編にわたりその視点が全く欠如している。</p>
291	<p>人生100年時代、超高齢社会は単身世帯が主流になることである。その高齢層に占める女性割合の増加、経済的な格差・貧困の女性に占める割合の多さなど、分析・調査に男女差の視点が不可欠であり、その分析のうえに、政策立案が求められているがされていない。</p>
292	<p>コロナの感染拡大、近年の気候変動の対応はとくに重視すべき課題である。早急に従来の保健、健康政策はもちろん、あらゆる政策実施の根本的な見直し、変革が求められている。こうした区制の変革の視点には多角的な参画と公正な立案が必要である。国の諸政面での立ち遅れに依存することなく、多様な価値観を尊重し、区民の人権を優先した区先の先駆的な対応が必要であり、そのためには管理職に男性が偏っている現状では公正な政策立案はできない。性別役割の固定化を積極的に是正する政策の具体化がない。</p>
293	<p>LGBTの区民の権利、選択的夫婦別姓の要請、障がい者の広範な参画の保障、外国人区民の母国の諸制度の受容などの視点と施策がない。たとえば、世帯ごと、世帯主の記載の見直し、個人の人権を尊重する住民登録とすべきである。</p>
294	<p>「一人も取り残さない社会」の中で、犯罪者の更生に地域の力は必要です。再犯を防ぐ、種々の取組を考えていただきたい。</p>
295	<p>健康・医療とのつながりが大切です。「学び」＋「健康・医療」⇒健康で住み続けられるまちづくりにつながると思います。生涯を通じた学びを通じて、はじめて一環した健康づくりができると思います。</p>
296	<p>区の今後も財政が主となります。何をすにも財源です。無駄のない区政を期待します。</p>
297	<p>1. 基本構想としては、あまり夢を感じられなかった。 2. 基本構想は、このようなものであろうが、数値的目標がないのは、やはり問題ではないのか。デジタル新時代に今のやり方ではスピードが間に合わないのではないかと思います。</p>
298	<p>これまでclosedになっていた協働をopenなものにする、というイメージは、希望を持ってました。多世代で、協働していくために、重要なのは、丁寧な「対話」だと思います。オンラインを活用することも必要だと思いますが、人々が集まって、話し合える「場」があってほしいなど、よく感じます。すべての人、そして人以外のあらゆる資源を活かし合っていけるよう、活動していきたいです。活動したくても、資金がなくて実現できない、とうことがあるように思います。世田谷区みたいな「まちづくりファンド」みたいなものをつくりたいです。</p>
299	<p>「子ども」についての考え方は、とても共感できました。しかし、大人でも尊重されたい部分あると感じます。一人ひとりの意見を、お互いに、世代関わらず、尊重し合えたら良いと思いました。</p>
300	<p>8つの分野で、将来像を提示されて、それぞれの分野を、理想的な形に向けていくために、あらゆる職業の方、活動者の方、区民一人ひとりが行動していくのだろうと感じました。8つの分野、それぞれが、誰かの仕事によってつくっていかれるのだと思うのですが、一方で、大きな変化の時代に、不安を感じるのは、まさにその「仕事」「働き方」「労働」という部分だなと思いました。</p>
301	<p>東西への移動は便利だが、南北の移動がスムーズに出来るように改善して欲しい。</p>

No	意見概要
302	緑化計画で戸建住宅に緑を入れる事も大事だが、地域の公園等の手入れを行い良好な緑にして欲しい。
303	これまでおこなわれていた杉並区の行政のあり方に加えて、更にこのたび提案される基本構想を推し進め、住みよい生活を送れるようにされることを願っています。
304	※限りある財源を出来るだけ予期不可能なこのご時世に「未来への「財」としてプールして」、この構想実現には人間力を主力として進行出来たらと思います。 ※今後、区民の全員が「自分の好き」を見つけ仲間入り出来る場を提供して下さいをお願いしたいです。区内にはボランティアで活動して下さっている方々がいて下さいます。若い方々も参加しやすい場を案内していただくと思いいます。区内には「座・高円寺」「公会堂」など公開の場に恵まれています。区民で活用出来ると良いですね。
305	目標を達成するための具体的な行動が知りたい。具体的な行動が書いていなかったのも、目標への過程が分かりずらかった。目標もう少し数値などを出すと分かりやすいのではないかと思った。
306	義務教育において、文化的な音楽、美術、体育等、時間数が減らされる事なく、想像力のある教育を望みます。
307	性的マイノリティの方については、行政として具体的な立法などが出来るのではないか。
308	農業は、産業ではないのか。都市農地となったら保全となるのなら、産業ではなくなるのか詳しく知りたい。
309	町内会の行政における位置づけがあいまい。そうした問題を解決しないと「絵にかいたもち」になる。
310	今回のコロナ対応で杉並区の方針がよく理解出来ました。他の行政区より、よく対応されたと感じています。
311	かつて杉並区は「みどり豊かな福祉と文化のまち」というスローガンで基本構想を発表されました。あれから30年ほどたちました。緑は減りつづけ、福祉は、保育園と老人ホームに特化されようとしています。時代は変わりました。文化も「日フィル」と郷土博物館、座・高円寺が支えています。でもなぜか最近の区政からは、文化の香りが漂っていないようなのです。文化の香りがしない要因にAI、デジタル化、ICTなどの普及が影響しているのかも知れません。 くしくもコロナワクチンの申込みにスマホの扱いが判らない区民がたくさんおり、ICTの活用とほど遠いところに多くの区民がいることが露呈しました。デジタル区民とアナログ区民が混在する状況の中で、区民の思いがすくいあげられる区政を切に願っています。 地域の絆の核は、やはり町会、自治会ではないでしょうか。役員は高齢者が多いのは否めませんが、地域の歴史、住んでいる人の顔、お店の様子など、よくご存知です。ここを大切にする区政が、暮らしや環境、安全・安心の街をつくる原点だと思います。 殆どの高齢者は、デジタルの恩恵から遠いところに居ます。健康も地域の診療所が、多くの区民の寄り処になっています。 もっと、地域の土の香り、人々の暮らしの香りのする基本構想になりますようお願いいたします。
312	区内には杉並区に住所を有する18駅の外、住所は隣接する区市に有する多くの区民の生活圏となっている8駅があるので、まちづくりの対象を区内18駅に限定すると誤解されるような表記は改めてください。また答申案全体についても、そのような考え方を改めてください。例えば「交通拠点となりまた多くの区民の生活圏となっている駅及び駅周辺を核として」などの表現にです。なお、もし区内18駅に限定するのが本基本構想の本意であるならば、他の駅を利用するおよそ6%の区民を切り捨てるようなこの答申案には反対します。
313	区内には杉並区に住所を有する18駅の外、住所は隣接する区市に有する多くの区民の生活圏となっている8駅があるので、まちづくりの対象を区内18駅に限定すると誤解されるような表記は改めてください。また答申案全体についても、そのような考え方を改めてください。例えば「交通拠点となりまた多くの区民の生活圏となっている駅及び駅周辺を核として」などの表現にです。なお、もし区内18駅に限定するのが本基本構想の本意であるならば、他の駅を利用するおよそ6%の区民を切り捨てるようなこの答申案には反対します。
314	区内には杉並区に住所を有する18駅の外、住所は隣接する区市に有する多くの区民の生活圏となっている8駅があるので、まちづくりの対象を区内18駅に限定すると誤解されるような表記は改めてください。また答申案全体についても、そのような考え方を改めてください。例えば「交通拠点となりまた多くの区民の生活圏となっている駅及び駅周辺を核として」などの表現にです。なお、もし区内18駅に限定するのが本基本構想の本意であるならば、他の駅を利用するおよそ6%の区民を切り捨てるようなこの答申案には反対します。
315	区内には杉並区に住所を有する18駅の外、住所は隣接する区市に有する多くの区民の生活圏となっている8駅があるので、まちづくりの対象を区内18駅に限定すると誤解されるような表記は改めてください。また答申案全体についても、そのような考え方を改めてください。例えば「交通拠点となりまた多くの区民の生活圏となっている駅及び駅周辺を核として」などの表現にです。なお、もし区内18駅に限定するのが本基本構想の本意であるならば、他の駅を利用するおよそ6%の区民を切り捨てるようなこの答申案には反対します。

No	意見概要
316	区内には杉並区に住所を有する18駅の外、住所は隣接する区市に有するが多くの区民の生活圏となっている8駅があるので、まちづくりの対象を区内18駅に限定すると誤解されるような表記は改めてください。また答申案全体についても、そのような考え方を改めてください。例えば「交通拠点となりまた多くの区民の生活圏となっている駅及び駅周辺を核として」などの表現にです。なお、もし区内18駅に限定するのが本基本構想の本意であるならば、他の駅を利用するおよそ6%の区民を切り捨てるようなこの答申案には反対します。
317	区内には杉並区に住所を有する18駅の外、住所は隣接する区市に有するが多くの区民の生活圏となっている8駅があるので、まちづくりの対象を区内18駅に限定すると誤解されるような表記は改めてください。また答申案全体についても、そのような考え方を改めてください。例えば「交通拠点となりまた多くの区民の生活圏となっている駅及び駅周辺を核として」などの表現にです。なお、もし区内18駅に限定するのが本基本構想の本意であるならば、他の駅を利用するおよそ6%の区民を切り捨てるようなこの答申案には反対します。
318	区内には杉並区に住所を有する18駅の外、住所は隣接する区市に有するが多くの区民の生活圏となっている8駅があるので、まちづくりの対象を区内18駅に限定すると誤解されるような表記は改めてください。また答申案全体についても、そのような考え方を改めてください。例えば「交通拠点となりまた多くの区民の生活圏となっている駅及び駅周辺を核として」などの表現にです。なお、もし区内18駅に限定するのが本基本構想の本意であるならば、他の駅を利用するおよそ6%の区民を切り捨てるようなこの答申案には反対します。
319	区内には杉並区に住所を有する18駅の外、住所は隣接する区市に有するが多くの区民の生活圏となっている8駅があるので、まちづくりの対象を区内18駅に限定すると誤解されるような表記は改めてください。また答申案全体についても、そのような考え方を改めてください。例えば「交通拠点となりまた多くの区民の生活圏となっている駅及び駅周辺を核として」などの表現にです。なお、もし区内18駅に限定するのが本基本構想の本意であるならば、他の駅を利用するおよそ6%の区民を切り捨てるようなこの答申案には反対します。
320	区内には杉並区に住所を有する18駅の外、住所は隣接する区市に有するが多くの区民の生活圏となっている8駅があるので、まちづくりの対象を区内18駅に限定すると誤解されるような表記は改めてください。また答申案全体についても、そのような考え方を改めてください。例えば「交通拠点となりまた多くの区民の生活圏となっている駅及び駅周辺を核として」などの表現にです。なお、もし区内18駅に限定するのが本基本構想の本意であるならば、他の駅を利用するおよそ6%の区民を切り捨てるようなこの答申案には反対します。
321	区内には杉並区に住所を有する18駅の外、住所は隣接する区市に有するが多くの区民の生活圏となっている8駅があるので、まちづくりの対象を区内18駅に限定すると誤解されるような表記は改めてください。また答申案全体についても、そのような考え方を改めてください。例えば「交通拠点となりまた多くの区民の生活圏となっている駅及び駅周辺を核として」などの表現にです。なお、もし区内18駅に限定するのが本基本構想の本意であるならば、他の駅を利用するおよそ6%の区民を切り捨てるようなこの答申案には反対します。
322	区内には杉並区に住所を有する18駅の外、住所は隣接する区市に有するが多くの区民の生活圏となっている8駅があるので、まちづくりの対象を区内18駅に限定すると誤解されるような表記は改めてください。また答申案全体についても、そのような考え方を改めてください。例えば「交通拠点となりまた多くの区民の生活圏となっている駅及び駅周辺を核として」などの表現にです。なお、もし区内18駅に限定するのが本基本構想の本意であるならば、他の駅を利用するおよそ6%の区民を切り捨てるようなこの答申案には反対します。
323	区内には杉並区に住所を有する18駅の外、住所は隣接する区市に有するが多くの区民の生活圏となっている8駅があるので、まちづくりの対象を区内18駅に限定すると誤解されるような表記は改めてください。また答申案全体についても、そのような考え方を改めてください。例えば「交通拠点となりまた多くの区民の生活圏となっている駅及び駅周辺を核として」などの表現にです。なお、もし区内18駅に限定するのが本基本構想の本意であるならば、他の駅を利用するおよそ6%の区民を切り捨てるようなこの答申案には反対します。
324	動物（ペット）に関する記載が全く無く残念でした。愛犬との散歩は地域との「つながり」でもあり、お喋りや情報交換等、楽しいひと時です。年齢関係なく皆さん元気な犬で明るい！けれども色々困ることもあります。例えば、犬を興奮させるような行動をとられたり、犬嫌いの人から嫌味を言われたり等、本当に犬が嫌いなのか？飼主のマナーの悪さに注意をしてくれているのか？悩ましいところです。飼っている人とそうでない人（特に嫌っている人）、双方の啓蒙活動が必要です。犬に関する苦情やトラブルも多々あり、飼育放棄される犬も沢山います。譲渡会や災害時の一時預り等、犬に関する諸々に「わん」ストップで対応可の施設（システム）があれば、と思います。そして任意でも犬税を導入し、そのお金を犬の施設や啓蒙活動に充てる「犬を飼うには費用も掛かる」、愛情だけでなく経済的にも責任を持つ人が飼うべきです。人間も動物です。みんな一緒に同じ時間を生きています。みんなが少しずつ譲りあい、歩み寄って共に生活できる動物との共生についても考えていただければ、よろしくお願ひ申し上げます。
325	何故、今日に至って支え・支えられる・孤立させないまちづくりが基本構想に策定されたかを考えると未婚率の増加、各家族化により一人世帯が増加し全世帯の30%余にもなり、特に65歳以上の一人世帯の高齢者のうち、他人との会話が「ほとんどない」と回答した人の割合は7%であり二人以上の所帯の値(2.2%)に比較して高い水準です。ひとり世帯の人は急な病気になった時が最も心配な事で頼りになる人が身近におらず社会的に孤立化状態です。孤立化を無くするには地域共生が必要です。具体的に地域共生を進めるのは町内会が主導して行わなければならない。だが事業目的の中に高齢化問題がない、その為には町内会の幹部にたいして意識改革をしてもらう必要があります、又町内会の幹部に地域共生に理解のある人が多数参加する事が大事だと思います。リタイヤされたのちの生活についてですが、同じ価値観をもった人と社会活動に参加することによって新しい大勢の友達を持つことができます。シルバー人材センターに登録したり、ボランティア活動に参加して友達をつくることも出来ます。地域での人間関係が老いてから特に必要になるのは当然ですが何かあってからでなく、何も無いうちから地域になじんでおく事が一人暮らしの方にとって必要な事です、又健康にも良い事です。



No	意見概要
326	<p>広報に堂々と民生委員は無報酬と記載あり、何んでこんな嘘を書くのかと、憤っています。杉並区だけが無報酬なんてあり得ない。            国勢調査、町会役員を中心に応募者によって、1区画80軒、約4万円。団地にポスティングするだけ。経済センサスも業者・郵便にすべき。            私も自治会役員になって不明朗な会計を全て公開しましたが、それまでは無報酬でやっているのかと思っていた。            高齢者に対してこんなにも手厚い保護が行われていると驚いています。日本全体が行き過ぎとも思います。</p>
327	<p>・外環道の工事はストップしてください。不幸にも亡議会で指摘されていた事故が的中してアッた以上無理です。即刻停止しか無い事は誰の目にも明らかです。</p>
328	<p>・児童館は子供達にとって、大事な居場所です。それを取り上げるというのは大人のすることではありません。”むごい”という言葉以外に云う言葉はありません。区の予算は充分あると聞いてます。未来を荷なう子供達のより所である大事な居場所を充実させる事が私たち大人の最低の任務ではありませんか？</p>
329	<p>・ドッグランのある公園を作って欲しいです。犬同士の交流の場ができると良いです。            ・犬のしつけ教室に1回参加しましたがとても良かったです。またいろいろなしつけが教われる教室があると良いと思います。</p>
330	<p>・富士見ヶ丘の南は大きなスーパーやドラッグストアもなく、道も狭く、バス路線もなく不便です。もう少し開発して欲しいです。            ・富士見ヶ丘小学校の跡地にスポーツセンターや図書館を希望します。</p>
331	<p>都市計画道路132号線の計画に反対します。いままでの商店街がなくなり、西荻窪の雰囲気が変わってしまいます。そもそも渋滞も無く、今まで安全で安心な道路です。</p>
332	<p>都市計画道路132号線の計画には、まだ住民への説明が不十分な気がします。近隣の住民の皆様の意見を良く聞いたうえで判断していただきたいです。</p>
333	<p>都市計画道路132号線の計画には反対です。この道路拡張計画の進め方に納得できません。十分な説明もなく、住民の理解が不完全なまま進行したこと。今まで大切に築き上げられてきた、その営みを奪わないでください。街づくりこそ民主主義であってほしい。「西荻 このまち」私の切なる願いです。            「あらゆる災害の際に、132号線沿いにある東京ガスからの支援車がスムーズに現地へ向かえる為」そのような説明を受ければ協力しなければと人の心は動きます。今、その東京ガスは跡形もありません。</p>
334	<p>私は都市計画道路132号線の計画に反対します。西荻窪の良い景観が崩れてしまうので反対です。</p>
335	<p>都市計画道路132号線の地権者です。道路拡幅事業については反対です。昔に決めた古い法律のもとで事業を進めているというプロセスがおかしいと思います。今、現に住んでいる人達の意見を聞くべきだと思います。一方的でない、西荻のすべての人が納得、理解できる方法を考えて尊重することが行政の役割だと思います。</p>
336	<p>杉並区がすすめるようとしている都市計画道路132号線拡幅計画には反対です。今生活している沿線の住民の意見をよく聞くべきだと思います。拡幅ではなく現状のサイズのまま道路の美化と安全向上のための施策にとどめ、大事な人やお金や時間をコロナ感染症対策や区民のための経済対策に向けてほしいと思います。</p>
337	<p>都市計画道路132号線の地権者です。コロナ禍の今、果たしてこの工事は本当に必要でしょうか？たくさんの方が職を失い、生活にこまっているのが現実です。このように申せば「工事をする事により、工事関係の職が増える」と言うでしょう。しかし、それは一部の問題の解決であり全ての解決には至りません。</p>
338	<p>価値観の違いや評価の分かれる事柄に関して、踏み込んでないキライがあります。一例を上げれば「動物との共生」です。ペットに関する価値観は分かれます。共生というのは、この相反する価値観を包摂（止揚）した概念と言えます。基本構想を貫く3つの基本的概念には、「様々な価値観を互いに認め合い」と謳っています。杉並区に生存する人と動物（ペット）との共生、どう折り合いをつけるか、とても大切な概念だと思います。総合計画や実行計画ではなく、基本的な考え方を構築する必要があると痛感します。是非基本構想に加えていただきたいと思います。</p>
339	<p>動物愛護のとり組みがないのはどうしてでしょうか。犬猫の殺処分、譲渡会、問題はたくさんあると思います。コロナ禍のなか、人間と同じ動物の虐待問題も、最大の問題です。これからとくに、杉並は動物との共生を目指す区だと思います。国・都、さまざまな規制等もあると思いますが、動物の命と健康を守る姿勢、体制を希望します。</p>
340	<p>子供の「イジメ」は一生引きずることも考えられます。大人はこの事を見て見ぬふりをすることは極力避けなければと思います。誰にも自分から言う事ができない。（仲間の手前とか、親に対する思いやりの気持ちでとか）子供は大人が（回わり）考える以上様々な理由が有るのだと思います。大人が気付いてやる。相談できる人の手配が必要だと思います。</p>

No	意見概要
341	<p>「国籍や性別、年齢の違いや障害の有無、性的指向や性自認等」の一連の文言の中に、「人種、宗教、出自、政治的思想、意見や価値観の対立」などの文言も加えてください。</p> <p>今回の基本構想では、区民が差別のない「互いを理解し、認め合い、支え・支えられながら暮らす」地域社会を目指すという、素晴らしい提案がなされたと思っています。</p> <p>ところで、国内には人種、宗教、出自、政治的思想、意見や価値観の対立など、より大きな差別や対立が存在しています。それらは杉並区にも波及しています。</p> <p>昨今は「コロナ差別」と言われるように、感染者、家族、濃厚接触者ばかりでなく医療従事者やエッセンシャルワーカーに至るまで差別や排除を受けています。また、SNSの世界における独善による容赦のない攻撃はエスカレートしており、当事者でないともみられない世界ですのでこれが事件にならない限り一般の人の目に移ることは少ないですが、自殺者まで出ている現実が続いています。これらの差別や対立の解消をも目指す区民の自覚と決意がなければ、「互いを理解し、認め合い、支え・支えられながら暮らす」社会は絵空事になってしまいます。ひとりも取り残さない、その実現には、これらの解消も含めた、基本構想に込めた私たち区民ひとり一人の想いが結集しなければなりません。</p> <p>もし文字数の関係でこれらが「等」に含まれているというのなら、それは逆です。「等」に含まれるべきは、性的指向や性自認の方であって、より広範性のあるものを残すべきです。性的指向や性自認やその他個々の課題については、総合計画や実行計画で落とし込んで行けばいいことです。</p>
342	<p>都市道路計画132号線の計画を中止して下さい。街の雰囲気が変わってしまうのは残念です。工事にかかるコストを経済・生活支援に回して下さい。</p>
343	<p>「柔軟で高い課題対応力を持つ区政運営」に関連して</p> <p>1. 行政の現場目線への懸念</p> <p>一般的に区のスタッフは企画中心で運営の実務はPFIなど民間等への委託が中心のため現場感が喪失しているのではと危惧される。</p> <p>「手」「足」を動かし「汗」を掻き「目」「耳」「鼻」と五感を動員して集めた情報を再構築し、必要なスタッフを適切に編成して柔軟に組織を動かして目的を果たす目線を考えて実行に移してほしい。</p> <p>期待するのは、行政のフロントラインにいて都や国では把握しえない住民のニーズは誰よりも的確にとらえている自負から生まれる施策。プライドを持って区の領域を超える案件は都や国に提言する気概。今般のパンデミックを契機として保健所をどうするのか、役割、機能、陣容等につき都や国へ提言してほしい。</p> <p>2. 既存施策の熱意への懸念</p> <p>新規取組施策に比べて、これまでやってきた施策の維持拡充への熱意が薄くなっていることはないか。たとえばごみ問題。「資源の集団回収」では実務をNPOすぎなみ環境ネットワークで運営しているが、処理業者の選定基準など業者名簿を渡されるだけでそれぞれがどのような条件なのかなど十分な説明がなされておらず、「民一民」の問題には関与しないというスタンスである。たくさんある業者の活動状況、業者によって異なる古紙、ビン、缶などの引き取り値段の公表などオープン化して競争原理を働かせることが望まれる。また、区からの報奨金の根拠となる計量は業者任せであり適切に行われているとの検査結果の公表など丁寧な説明が必要である。</p>
344	<p>防犯カメラの設置について都と区で5/6を負担し1/6を町会自治会により設置・運営する施策は、公的機関の責任転嫁と思料する。管理責任は設置者である町会等の負担となり、法的責任、日々の実務の負担、日々のメンテナンス費用（通常部分でなくイレギュラーに発生するもの）や将来のリプレースの経済的負担、付保・補償責任などを公的機関が免れるための措置としか思えない。防犯カメラは公的機関が管理・運営し、場合によって当初町会等が一部費用負担するやりの方が望ましい。</p>
345	<p>相続などを契機として当該土地が細分化し再開発される事例が顕著である。木密住宅や狭隘道路を増やしている状況である。方向として集合住宅化を進め公開空地の緑化を促す施策が望ましい。将来の人口減少に伴う空き家対策からもこの方向である。土地の細分化の阻止が区のみではできないのならば都や国に現場の実態として提言を促していくべきである。</p>
346	<p>現行の国保特定検診にある特定保健指導は形骸化している。実態に踏み込まず単なる精神論的説諭のレベルである。生活習慣病及びその予備軍に対しては、医師の診断をもとにジムトレーナーやリハビリ関係者の運動メニュー、管理栄養士による食事療法指導とチームを作って個別に具体的なコンサルテーションするプログラムが必要である。有料老人ホームでは入居者のために訪問診療の医師と施設の看護師、介護職員、リハビリ担当者による運動療法、施設内での管理栄養士の指導の下の食事が提供されている。これに類する仕組みを施設に入る必要のない60代後半の老人向けにコンサルテーションと実技指導ができないものか。検診担当医と民間ジムや区営のスポーツ施設の担当者及び管理栄養士の連携で可能と思われるが、本件無償の必要なし。</p>
347	<p>現在民生委員のなり手が少なく課題となっているが、67歳が民生委員となる初発年齢である。定年が70歳時代となりサラリーマンを終えて地域に貢献しようとしても現行のままでは方途がない。例えば72歳からでも民生委員になれる仕組みをつくればより充足感の強い制度運営ができるのではないかと。一種の老老介護として一人の負担を減らし数多くで支え合う方向ではないか。</p>
348	<p>中長期の計画や基本構想など、ともすれば計画だけで尻すぼみのやりっぱなしになる傾向がある。当初の責任者である為政者が交代したり、時代が局面を変えていることがあるからで、一定年限を決めて必ず中間報告や最終報告を行うことをスケジュール化してほしい。そのうえで、できたこと、できなかったこと、改変することなどを嘘偽りなく丁寧に総括してほしい。</p>

No	意見概要
349	<p>「はじめに」で『①何が最善の選択であるかを熟考し、②私たち区民と区が手を携えながら③制度や規制の壁を果敢に挑み・・・』とありますが、この①②は全くのウソである事は私は知っています。③は本当かもしれませんが。</p> <p>阿佐谷地区編成では、区長が個人となり、議会を通さず、勝手に契約できるという法を使って、勝手に税金を使います。これが「制度や規制の壁を果敢に挑み…」というところかもしれませんが、この不思議な法律について、どう質問しても区職員は答えられません。どんなに区民が反対しても勝手に押し進めるのが杉並区政です。</p> <p>今まで、田中区政が強引に進めた施策についてはや後の祭りのこの基本構想は、逆方向の美文でしかありません。</p>
350	<p>「共に認め合い、つながる社会」のところで、「性的指向や性自認等」という言葉ははいておりました。最近マスコミ等で盛んに取り上げているLGBT問題等の影響もあると思いますが、私の身の回りで特にこの問題が、差別問題として取り上げられたこともなく、基本構想に列記することは敢えて強調しているようにも見えて違和感を感じます。</p> <p>トランスジェンダーで苦しんでいる人もいらっしゃるかもしれませんが、男女の性以外のものを多様化という言葉で、一括りにしてしまうことが、本当に彼らの救いになるのかどうか疑問です。</p>
351	<p>これが、人口57万人を抱える杉並区の「羅針盤」なのか。「羅針盤」であるならば、それにふさわしく杉並区を科学的に分析し、その現実を見据え、そこから杉並区をどうしていくのか。そして、一番大切なのは区民の立場に立ち、区民に寄り添い、区民と共にともに杉並区政を進めるという姿勢が必要ですが、その視点が全く見えません。</p> <p>例えば、10年前の「基本構想」の目標3の『10年後の姿』『みどり』豊かな環境にやさしいまちでは、「自然環境と人の営みが共存するまちの形成がすすんでいる」と言い、「屋敷林と農地などの民間のみどり、街路樹や公園などの公共のみどり、河川沿いの水辺環境を守り育み、それらをつなげた緑のネットワークづくりが進んでいる」と謳っています。ところが、現実はどうでしょうか。阿佐ヶ谷駅近くの「ケヤキ屋敷」には河北病院が移転し、屋敷林は伐採され高さ40メートル9階建ての病院ビルが建築されようとしています。これは、まさしく「杉並区基本構想」に背く暴走であります。トップダウンの田中区長によるものです。区長が「杉並区基本構想」を守らない、これでは安心して区政を任すことはできません。この一例を挙げただけで、今の杉並区政が区民のための区政になっていないことが明瞭になっています。</p>
352	<p>「行政のみで解決していくことは困難」になっているとして、「新たな協働の仕組み」が提案されているが、行政の責任の下で、区民の意向を踏まえて推進する決意を期待したい。</p>
353	<p>「健全な財政運営」の名の下に、区民のニーズや有用性を抑えて行政の役割を後回しにすることは許されない。活発な意見交換の場を数多くつくるように願いたい。</p>
354	<p>区が目指すべき自治のあり方について、一般区民の意見交換と参加の場が少なすぎないか。区立施設の再編整備、子どもの生活と活動の場の保障、幹線道路整備など、区民の旺盛な参加が求められていると思う。</p>
355	<p>多くのMission statementはありますが、区が目指すVisionが明確に示されていないのは残念案気がしました。例えば「誰もが長く住みたいまちに」というVisionが示されれば、策定された多くのMissionがVision実現のための有効な手段となると理解できます。「みどり豊かな住まいのみやこ」ではVisionとしては不十分ではないかと感じました。また、杉並区が住みたいまちになるには、人を惹きつける魅力あるまちにしなければなりません。公園、美術館、建物、イベント等、今後はどのように計画、実行したら多くの人達を惹きつけることができるかを考えて頂くようお願いしたいと思います。安全性、利便性の確保は最も大切ですが、更に人々を惹きつける何かを計画して欲しいと思います。</p>
356	<p>全て、理想的、平均的、どこの区でも同じようだと思います。特色、或いは今までにない画期的、チャレンジ的な要素がないのが残念です。</p>
357	<p>緑を増やす。杉並区は樺、イチョウ並木が多くて良いイメージがある。もう少し踏み込んで、住宅、アパート、マンション等建設する前に、〇%を緑にするとか、落葉を問題にするなら常緑樹とかして、CO2軽減にもなる。</p>
358	<p>エネルギーについて、水素、ソーラーパネル等、区で公的に積極的に取り入れる。</p>
359	<p>差別、人権について、性的指向や性自認等という前に、お互いを認め合う、根本の人格形成を家庭で親が学校で先生が、イジメやDV等真剣に取り組む大人の真剣な生き方をもっと啓発しましょう。古いものは悪と決めつけず、優しさ、温かさ、等の言葉を大人から発信しましょう。</p>
360	<p>特色として、電柱を無くすのはもっとすすめて欲しい。歩道の安全性、2次災害を防ぐ、加えてコンクリートなら良いでしょうが、鉄製の場合は犬の尿かけで腐し、倒れた例が危険。</p>
361	<p>都市計画道路132号線に反対です。工事にかかるコスト250億円は別の事に使って頂きたいです。</p>

No	意見概要
362	<p>2012年に策定された基本構想に対しての区の見直しについての検証はわずかに冒頭に「現基本構想に基づいた区の見直しの振り返り」とあるだけで、区民が日常に感じている感覚と大分異なっています。</p> <p>例えば、荻窪駅近くの「あんさんぶる」は区民にとってとてもいい施設で、区民の多くが利用していました。現在は荻窪税務署に変えられました。田中区長と麻生財務大臣が握手している新聞報道であんさんぶると税務署が財産交換をしたことを区民は知りました。あんさんぶるでは「魚型の机」で中高生が集りよく勉強していました。この机は現在ウェルファームに移されましたが中高生の姿はほとんどありません（コロナ禍の前からです）。子どもたちの利用できる施設を区がなくなったのです。次々と廃止されている児童館、科学館の廃止、区立施設の削減や利用時間の変更やそれに伴う利用料金の値上げ、ゆうゆう館の改変等、区民が心豊かに集える場を区が大幅に減らしました。現状分析をしっかりと行ってください。</p>
363	<p>「住いのみやこ」と表現したことを「区民とともに良好な環境を育み、住まいの街としての新たな価値を生み出していく」と答申案では説明していますが、区民としては表現方法ではなく、実際に緑を大切にしてほしいです。阿佐ヶ谷駅北東地区の大規模開発で、どれだけのカヤキ屋敷の森の大木が伐採されることでしょうか。河北病院の新築のために少ない阿佐ヶ谷駅前の緑をなくし、土壌汚染が心配される河北病院の跡地に杉一小の移転、建設、未来ある子どもたちも、緑も大切にしていない現状が今の区の姿勢です。</p>
364	<p>2012年策定版では「自分らしく生きる」という言葉はほとんどありませんが、答申案では何度も「自分らしく生きる」という言葉が使われています。「『人生100年時代』を自分らしく健やかに生きることが出来るまち」「すべての子どもたちが自分らしく生きていくことができるまち」「人生100年時代を自分らしくいきいきと生きるための学びを支援する」等々、とても言葉が軽く扱われている感じがします。「自分らしく」とは行政が区民に対し使う言葉でしょうか。しかし、考えようによっては、「自分らしく」という言葉を行政が使うことで、問題が自己責任にすり替えられることを危惧します。コロナ禍で区民生活は苦しくなっています。「新型コロナ災害 緊急アクション活動日誌2020、4-2021.3（社会評論社）」の本の中に杉並区の福祉事務所での生活困窮者に対する対応のひどさが書かれています。事実として現状を分析することで、新しいビジョンが生まれるはずですが、区民の生活実態をつぶさに調査してから、基本構想を考えてください。</p>
365	<p>2012年の「杉並区基本構想」を改めて読み直しました。将来像として「支えあい共につくる安全で活力あるみどりの住宅都市杉並」とあります。今回杉並区が目指すまちの姿として「みどり豊かな すまいのみやこ」は前回に比べても具体性に欠け基本構想のイメージがわかりません。再考を望みます。</p>
366	<p>10年前の「基本構想」には5つの目標が掲げられ、それぞれに取組みの基本的な方向と戦略的・重点的な取組みが記載されていました。10年間で、その取組みがどう達成されたのか、未達成だったのはどれなのか、取組みを分析した結果はどうかそれを提示してほしい。それに基づいて新たな基本構想が立てられるものと思います。</p>
367	<p>災害につよいまちの基盤づくりとして、延焼遮断帯となる都市計画道路の整備とあります。一般的には必要な道路があるのかもしれませんが、具体的な西荻の132号線が対象となったら、反対せざるを得ません。延焼遮断帯となる道路整備の必要は全くなく、住民の反対を押し切って進める工事には反対です。プラタナスの街路樹の美しい道路の拡幅など必要ないものと思います。ここにかかる費用を他に回してほしいと思います。</p> <p>風水害に対する備えとして雨水流出抑制施設の設置などの流域対策については善福寺川流域の雨水対策を緊急に実施してほしいと思います。井荻小学校のすぐ横の道路の雨水が溢れだし、下校時の児童にとって危険な状況。ポンプ設置などの応急対策の他、根本的な解決を望みます。</p>
368	<p>地域特性を生かした駅周辺まちづくりについて、地域特性を生かすためには住民の声や要望をしっかり受け止め、時間をかけて納得のいくまちづくりを進めてほしいと考えます。</p> <p>利便性の高い移動環境 コミュニティバスの増便と運行範囲の拡大を求めます。高齢化社会になり、移動手段として、身近なところから利用できるコミュニティバスがあると助かります。</p>
369	<p>地球環境問題が大きく取り上げられるようになった近年、杉並区の取り組みに期待しますが具体的な取組方法をぜひ提示してほしいと思います。阿佐ヶ谷の樹木が切り倒される心配。善福寺の屋敷林の木々が切り倒され、更地になっていく現状を憂えています。保護樹林や保護樹木が機能しているのかも知りたい。各地に小さな公園をつくり、積極的に緑を残す対応をして欲しい。東京ガスの跡地などの広い敷地の一部でも区が借りるか買い取って、緑の公園にできなかったのが残念です。</p>
370	<p>重点的な取組の項目にコロナ対策が記載されていません。コロナは一過性の問題ではなく、まだまだ続く脅威です。この間ワクチン接種の予約でも高齢者は大変な苦勞を強いられました。感染症に対する基本的な情報の伝達、特に情報の届きにくい高齢者や一人住まいの方への対策も考慮してほしいと思います。保健所の強化も必要。保険料や、老人医療費の値上げも心配です。身近な自治体での対策を求めます。</p>
371	<p>多様な福祉基盤の整備 「住み続けられる杉並」を多くの人が望んでいます。家賃補助制度や空き家対策など、杉並区としての住環境の支援を求めます。高額な入居金、月々の高額な支払いが求められる高齢者入所施設の案内チラシが良く届きますが、大半の人には無理な施設です。公的な在宅サービス、施設サービスの充実を希望します。</p>

No	意見概要
372	<p>まさにその通りと言える内容です。しかし現実には、それが実行されているとは思えない出来事があります。児童館の廃止です。この間ゆうゆう館と共に児童館廃止が区の方針として打ち出されました。長年杉並の児童館、学童保育は、他区から見学に来るほどの充実した取組でした。学区ごとに作られた児童館は学童クラブと共に放課後だけでなく、夏休みや冬休みなども子どもの遊び場として地域の子どもの安心して集える場所になっていました。お兄さんお姉さんと遊ぶという縦割りの関係もでき、もちろん親も安心して子どもを送り出せました。学童クラブでは子どもを中心に母親、そして父親も巻き込んで、夏祭りやキャンプなども計画できました。地域のコミュニティとして、子育てを地域社会で支える取組ができていました。例えば善福寺児童館の場合、中学生や高校生の居場所としても機能していました。機能移転の名で、居場所が元のように使えなくなることに對しての中高生の意見は尊重されていません。十分納得のいく説明もないまま、これを推し進めることには反対です。</p> <p>子育てを地域社会で支える取組の充実の内容として「保育園・学童クラブ等における質の高いサービスを提供します。また、子育てを応援する地域づくりの取組や、地域の力を生かした子育て支援策の充実を図ります」とあります。この文面をぜひ実行してほしいと願っています。民営化によって失われるものも多いと思います。どのような環境でどのような触れ合いの中で子ども時代を過ごすかは後々の人生に大きく影響します。杉並で育てて良かったといえる環境を作るのは大人たちです。区の重点的な支援を期待します。</p>
373	<p>著名な文化人の資料などが展示されている施設があるとよいと思います。そこを文化芸術活動の創造と発信の場にしていけるとよいです。区立美術館もあるとよいです。税金の使い方が重要だと考えます。</p>
374	<p>言葉の上では本当に素晴らしいとても良いことづくめの事が書かれておりました。しかし、子供の幸せ1人1人の大切さ、本当に子供1人1人の幸せ、日常への考慮がされているのでしょうか？</p> <p>”杉並区が目指すまちの姿” ”みどり豊かなみやこ” ”まちづくり地域産業” ”環境・みどり”について、なんと素晴らしい文言を将来に向けて進めてくれるのでしょうか。しかしながら、今まで行っている事は、あまりにもこの文言に逆行しているのを耳をうたがいます。</p> <p>東京都の旧跡に指定されているけやき屋敷を、杉並区の保護樹林の看板がかけてあったけやきの林のほとんどを切りたおし、40、60mのビルを建てるのはこの文言の言うみどりあふれる町なのでしょうか？野生動物のすみ家をごわすとか、この答申にそったことなのでしょうか？私にはどうしてもわかりません。駅前小学校跡に60mの商業ビルをたてるのが、”みどり豊かなみやこ”なのでしょうか？最近この町も駅前にビルが建ち、どこもかしこも何の特徴もない町が増えています。阿佐谷もそうになってしまうのでしょうか？</p> <p>平成26年杉並区緑地保全計画には、はっきり駅前のやしき林を区民のために保全していくと田中区長の署名入りでうたっており、区民のほとんどの人がけやき林の保全をもとめているのです。</p> <p>文言だけが立派なだけで区はまるっきり緑を壊すことをやっており、信じる事ができません。1本1本の木を大切に、何処にでもある特徴のない60m40mのビルが建つ駅前ではなく本当の緑あふれる良好な環境を将来にひきつぐ事を真剣にとりくんで下さい。</p>
375	<p>10年構想にしては具体性に欠ける。それをどのように具体化していくのかについての区政のかかわりも抽象的でわかりにくい。区民が日々感じている暮らしにくさも解消できると思えない。この10年で区民サービスは前進どころか後退している。住民税や国保料も値上がりした。住民自治の基本となる集会所も使用時間が細切れになり、使用料も値上がりした。全ての小学校区域にあった児童館も次々に閉鎖、杉並独自の乳幼児から中学生、そして不登校・登校拒否の子どもたちも参加できた豊かで自治的な児童館文化が消えようとしている。校内にある学童クラブには不登校の児童生徒は来られるはずもない。</p> <p>理念には、自助・共助が強調され、区の行政としての役割が具体的でない。</p>
376	<p>前の「みどりゆたか豊かな福祉と文化のまち」の方がよい。「住いのみやこ」などわけ分からない表現はしないでほしい。特徴としては、杉並区に住んで本当によかったと思えるような「福祉と文化のまち」にしていきたい。</p>
377	<p>重点的な取組に、下記を入れてください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 区役所・出張所・図書館など区の施設や小中学校の屋上に太陽光発電の装置をつけ、使用電力をまかなう。</li> <li>② 区内の貴重な緑を守る。</li> </ol>
378	<p>重点的な取組に、下記を入れてください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 取り組みの方向性(3)の感染症などの前に「コロナなど」を入れ、医療体制と共に「休業などの補償」を入れる。</li> <li>② 重点的な取組の2番目に「非常時にも必要な医療が安心して受けられる人的措置も含む環境を整える」を挿入。</li> <li>③ 「杉並区に2つの保健所を」を都に訴え、それまでは区立の保健所を創設する。</li> </ol>
379	<p>重点的な取組に、下記を入れてください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 重点的な取組に、「子どもたちを」中心に据えた委員会を立ち上げ、「『子どもの権利条約・すぎなみ』をつくる。」を入れる。</li> <li>② 「子どもを孤立や虐待から守る」を「子どもを孤立や貧困・虐待から守る」に変える。</li> <li>③ 「②のために福祉事務所のケースワーカーなどの職員を増やす」を入れる。</li> <li>④ 「子どもも親も、気軽に安心して過ごせる場所の整備」として、中高生も参加できる新たな形の児童館を追求する。</li> </ol>
380	<p>重点的な取組に、下記を入れてください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 「誰一人取り残されない」としながら、区の施設の使用料などが他区に比べて非常に高額である。学習や文化のための集会所・スポーツ施設の使用料は、原則として無料にするべきである。</li> <li>② ICT活用を強調しているが、現在の学校の状況では「一人ひとりの子どもに応じた最適な学び」は無理である。その前に、学校教育では少人数学級を目指すべきである。</li> </ol> <p>杉並独自の30人程度学級は『師範館由来の』区費教育が減っている中で後退し続けている。小中学校20人学級を目指して当面区費教職員を確保してほしい。</p>

No	意見概要
381	全体として、ジェンダーの視点からの方針が見当たらない。将来像の中にきちんと位置付けてほしい。
382	世の中には多様な背景を持った人々が沢山いらっちゃって、1つの社会、国、世界の中で共に生きています。お互いを理解して差別のない社会を築いていくことは必要なことです。しかし、国籍、性別、年齢や障害の有無といったものと「性的指向や性自認」を併記して記入するのはやはり次元が違う内容だと感じます。私の知り合いでも本心では、心と体の指向性の違いを無くしたいと思って苦しんでいる人もいますし、思春期の青少年の場合は心と体の成長にしたがって、変化する場合も多いです。父親もしくは母親の幼少期虐待が原因となって異性を受け付けなくなった人もいます。精神的なケアが必要なこともあり、それらすべて、それらはそれで良い、そのままが良いのだと勝手に結論づけてしまっているようにも見えます。モット慎重にデリケートに扱う内容でもあり、ここに載せるような内容ではないと思います。
383	基本構想すべてが立派ですばらしい発想と思います。これは全て国と都の構想基本と考えられるものである。杉並区が成功すれば日本の構想とも思っているのではないかと。どうか頑張って区民と行政がお互い協力していきましょう。 「人生100年時代」を自分らしく健やかに生きることができると、分野の将来像と取組の方向性については一番感心しました。健康長寿社会時代を目指し、元気であれば気も心も幸せであることが自然ではないでしょうか。それには現在の医療費の増加による他の分野の改革に影響があるのでないかと思えます。医療費の増加の一番は薬品ではないか、後期高齢者が必要以上に薬代を消費することです。マイナンバー取得させ医療保険証にすることで、薬代を重複することがないと思えます。各家庭に多くの薬が無駄にあるが現実である。薬局では残る薬品は引取しないのが問題である。病院・クリニックでは処方箋に同様の薬を何度でもくれるマイナンバー保険証では期間と薬のダブりがなくなると思えます。
384	緑地保全是オープンスペースに含まれると考えることもできるが、緑地については農地や屋敷林など個々の区民の持つ緑地環境も大きく防災に貢献していくことが考えられる。したがって、単にオープンスペースとして括るのではなく、防災に役立つ区民の取組を通じた緑地保全を後押しすべきである。
385	地域産業である商・工・農業などの地域産業が、区民の暮らしの安全と安心に貢献していることを明記すべきである。
386	グリーンインフラの促進には、その核となる農地を含む緑地やその他の施設等について積極的な保全と活用への対応を行うべきである。
387	荻窪駅南口と阿佐ヶ谷北口広場にある喫煙コーナーを廃止して下さい。禁煙が言われているにもかかわらず、行政があえてこういうコーナーを設置する必要はない。
388	区内に美術館を建設して下さい。区役所のロビーでは限られた展示しかできません。
389	「人生100年時代」に向けて、子どもたちが楽しく100年学び、続けられる基盤を作れないか。放課後、好きなことを学べるスペースを設ける。 パソコン室や図書室などに子どもをサポートしたり提案したりできる人員を割けないか。（高齢者のボランティアなど）
390	スポーツ通しても異なる世代とコミュニケーションを取れるような場を作れないか。安心して子どもを産み育てられる社会を作るために男子と教育を強化できないか。 40代以上の子育て世代では、父親の意識が低いことで母親は長く苦しんで来た。対話の大切さを教える、「イクメン」ではなく「自分の子どもを自分の子どもという意識で妻と協力して育てる」ことをあたりまえにする。企業も子育てしている人には男も女も対応の対応をする世の中になって欲しいと願う。
391	1996年に杉並中継所の稼働によって発生した健康被害・自然環境異変・・・杉並病・・・と、1970年に東京立正高校に発生した光化学スモッグ被害は、ともに全国に先例をみない環境破壊被害でした。光化学スモッグとこれに起因する自然損傷と肺炎の防止を求めて、大気汚染状況を測定する活動も、中継所に起因すると「公害等調整委員会」が認定した自然・健康被害についての住民活動も、全国に例をみないものです。小中学校の環境学習、高校・大学生の自由研究、大学の卒業論文にも取り上げられています。全国の個人・機関の研究に資するよう保存都資料提供の責任を果たしていただくことを切望します。
392	理念・取り組みの方向性などは抽象的な意味では同感できるものですが、具体的な内容について、これらの理念に沿うものか、については疑義があります。 幼児保育も放課後の子どもの生活についても、民間企業に委託されるということなく、「公的な責任」を全うしてください。 かつて、就学前の乳幼児・幼児を自治体（区）が運営していた時は、年齢別保育が徹底し、看護師も配置されていました。民間保育園なども見学したことがあります。歩き始めた子はハイハイの子を踏むやら、つまづくやら、の状況でした。保育士の数も少ないので事故が起こっても「当然」の状況でした。荻窪の周辺では、ビルの2階、4階へエレベーターによって保育室に上がる例もありますが、災害時が心配です。また、突如閉園してしまう例もいくつかありました。 児童館運営も公的な責任を保持してください。「学校へは行けなくてもここ（児童館）には来られる子がいるんです」と職員に聞いたことがあります。近年、夏休みのあと（登校できなくなる子）のために「図書館にいらっしやい」ということも言われるようになりました。学校構外で放課後の暮らしができる状況を保持してください。